



## 巻頭言

### 始めてのスキー



会長 田 英 夫

私がスキーを始めたのは昭和十一年、小学校六年の時だった。

家族で上野から夜行列車に乗り、青函連絡船に乗り継ぎ、北海道に渡って「昆布」という駅に降り、雪の中「馬ソリ」に乗って現地「ニセコ」に到達した。東京からはまる一日かかる行程だった。それが生まれて始めてのスキーだった。

ゲレンデらしい場所はあるても雪は踏んでないし、スキー場はこんなものかという感じだった。

三日目はスキーで二〇〇〇メートルの山を登って頂上にたどり着いた。まだ十分に滑ることができないのに、深雪の中を二本のレールのように跡をつけて登り、帰りはその跡をレールにはまった汽車のように降りてくる。曲がり角は緩く自然に曲がるが、やはり転んでしまう。その時先導してくれたのは札幌の鉄道局に勤めていた村川さんという日本では有数のスキーヤーだった。私はここで一週間を過ごし、それから札幌へ出て有名な大倉シャンツェにもいったが、下から眺めただけだった。それ以来毎シーズン、スキーにとりつかれて行っていた。

大学に入学し、「戦争」では特攻隊で二年間を過ごし終戦を迎え、幸いにして命は助かった。終戦の年の十二月、スキーも焼けてな

かったけれど手ぶらで新潟県の関温泉へ行った。

いつもそこで滑っていたので行けば何とかかなると思っていた。やはり思ったとおり、スキーもヒッコリーの素晴らしい物を貸してくれ、久しぶりに滑ったスキーの味は忘れられない。二年の空白をとりもどすには十分だった。それでまたスキーを再開したが、戦争に行っていた二年間でスキーの滑り方が変わってしまった。肩を振り込まない、むしろ開いてまわるスキー、ぜんぜん今までと違う。

私がスキーを始めたころはアールベルグスキーのハンネス・シュナイダー氏が来日し、新しいスキーを教えていった。それを皆まねして滑っていた。ですからその転換をするために初心者にもどりスキーをしなければならなかった。またそれが面白くてたまらなかった。昭和二十四年に指導員を取り、わずか四年間の転換でそれを成し遂げられたのは幸せだった。スキーは体重の移動によってまわるという物理学の原点だと思う。

今はスキー人口が減ってきているが、昔と違いアクセスも良くなり、宅急便を利用すれば身体ひとつで出かけることができる。歳に関係なく楽しめるスポーツ。スキーの楽しさを一人でも多くの人に味わってもらいたい。

## ◇日本のスキーを振り返る

日本のスキーは1940年代までは競技スキーを目指す者と、岳人や一部の人たちがスキーに親しんでいました。その後、1950年代半ばから急激にスキー人口が増加して大衆化が進み、スキーブームに入って行きました。

雪が積もり、スキー場に適した山合のあちこちに「自然発生的」にスキー場が出現しました。農家は民宿に変わり、リフトやゴンドラが出来、雪上車も導入されるようになりました。

また何もなかった新しい場所に、企業が資本を投じて、大型スキー場が「計画的」に開発されるようになり、さらに降雪機の発達によって「人工雪のスキー場」も出現しました。

このような状況のなかで、経済成長とあいまってスキーブームは、とどまることもなくのび続け、一例をあげれば世界中で1年間に販売されたスキーが約300万台、その内の200万台が日本で売れたという異常な時もありました。1991年の事です。そして振り返ってみると日本のスキーは若者が中心のスポーツになっていました。

それに対応して受け入れ側も、リゾート法の施行もはづみになってゴルフ場とともに、スキー場は増え続けました。リフトや駐車場などの施設も機能的に完備され、レストランもバイキング方式を取り入れるなど、すべて若者向きに「機能性重視」されたスキー場が多く出現したのです。ナイタースキーも盛況で、宿も相部屋が当たり前という時代が続きました。そのような状況は中高年に不向きな環境でもありました。

そして、雪や自然に親しみ、その土地の文化にもふれあいながらスキーを楽しむという、昔からあった「ゆとりのスキー」は姿を消していました。

しかしこのような状況は、バブルの崩壊とあいまって、それを支えていた若者のスキー離れとなって急速に進み、日本独特ともいえる、異常なスキーブームはあっけなく去ったのでした。

これが今までのスキーの現状ではないかと思えます。

## ◇現在のスキー事情

そして今スキーブームにかげりが見えてきて10年が過ぎようとしています。そんな中でスキー事情も大きく変わろうとしているように思います。

日本中のスキー場は、ブームの時とは嘘のようにリフト待ちもなく、レストランもゆっくり出来、宿も混雑がなくなりました。需要と供給のバランスが逆転したのです。

言い換えれば、ブームの時の「機能性」の施設はそのまま残っているうえに、「ゆとりのスキー環境」がようやく揃ったのです。

そして、スノーボーダーもスキーヤーととけ込み、受け入れ側にも違和感がなくなりました。さらにスキー用具も操作しやすいカービングスキーが出現し、早く楽に滑れるようになりました。

スキー場側はすべての部門において、ブームの

時の反省をふまえ、ソフト面についても改善の努力を感じられるようになりました。

このような状況変化の中で、まず中高年や家族連れのスキーヤーが戻りつつあります。スキー場の魅力は計り知れないものがあるだけに、若者も日本の経済事情が良くなれば必ずスキー場に行くはずです。

私は今年のシーズンの終わりに、オーストリーのレヒでスキーをする機会がありました。

リフトを乗り継ぎながら地図をたよりに、ロングコースをあちこちと滑りました。本当に楽しく、まさにスキー再発見でした。4月だというのにスキー場は中高年や家族連れで賑わい、日本との差を実感し、改めて伝統の差を感じました。

振り返ってみれば、日本はオーストリーのレルヒ少佐の指導を受けてスキーがスタートしてまだ100年にもなっていないのです。歴史の浅さを痛感すると共に、日本独特の異常とも言えるスキーブームの時もありましたが、ようやく落ち着いた気配を今、現実として感じています。

現在の状況は、先進国ヨーロッパと同じ「機能性」と「ゆとり」のあるスキー場へと、ようやく良い方向に向きつつあるのでは無いでしょうか。

スキーをはじめスノースポーツは自然の中で、自然に親しみ雪とたわむれるものです。用具も多様化し、スキーもテレマークスキー、ラングラウフスキー、スキーツアーなどそしてスノーボードも含めてさまざまな楽しみ方が増しました。

自然の中に溶け込んで、スノースポーツとしてレジャーとして雪の中に、スキー場に出掛けて欲しいと思います。

前にも述べましたが、それを受け入れる環境をスキー場は、ハード・ソフトの両面で備えるようになりました。言いかえれば落ち着いたを取り戻し、「定着期」を迎えてスキー場になってきたといえます。

指導者の皆さん、一人でも多くの人を雪の上に連れて行き、白銀におおわれた自然に親しみを覚えてもらい、スキーの素晴らしさを体験させて欲しいと願っています。



(財)全日本スキー連盟  
専務理事 丸山 庄司

## 求められるスノースポーツ指導者像

厳しい経済状況の中、スノースポーツの世界でも徐々にスキー学校離れが叫ばれている昨今、何らかの手段を講じて解決しなければならない問題です。原因としてスキー人口の減少・スキースタイルの多様化などがあげられますが、今後は受講者の求めるニーズにおいて如何に対応するかという指導者の能力がどんどん問われてくるように思います。

以前に現場で実践実行に携わるナショナルデモ（若月新一・山田卓也・丸山貴雄・片山秀斗）の四人がスキージャーナル誌において「これからのスキー教師に求められるもの」という題材の元に対談していた中で参考にしたい部分を記してみます。

**スキー教師におけるサービスとは技術の提供だけではない！**

オーストリアの場合あらゆるシチュエーションにおいて指導者は「安全に楽しく滑らせる」をモットーに、ガイドあるいはホスト的な役割が大きい。ただ1週間以上の滞在日数の中で行うレッスンと正味2時間のレッスンとではそれぞれのスタイルの違いからそのままあてはめるのは難しい。今後はさまざまなシチュエーションに加えバリエーション豊かなレッスンがポイントになってくるであろう。

**スキーと直接関係なくてもいい。いろいろなことに興味を持ってプラスαのものを身につける。**

最低でも雪山を滑る知識を身につけた上で、専門分野以外のスノーボードであったり、テレマークに挑戦してみたり、会話の中身を充実させるためにスキー以外の知識を高める情報収集など、一般常識を備えた人間性をアピールしていかなければならない。

**挑戦やがんばることのきっかけをつくってあげること、それもスキー教師の役割**

今まで知らなかった世界を体験することで、新たな楽しさを得るというプロセスの中できっかけを作り、与えてあげるのもスキー教師の役割のひとつである。

**表現を変えれば基本も最新に。豊かな表現力もスキー教師の能力**

常に最新の技術をもとめる受講生に対し、個々にあったアドバイスや到達までのプロセスを導くかが求められる能力であり、そのためにも表現方法のバリエーションを広げなければならない。

**スキー教師はサービス業であり、接客業だという認識は大切**

接客マナーの講習を行ったり、オフシーズンに集客のための営業するなど、高い技術力、指導力に加えニーズにあったプログラムを考え、提供する、プラスαの知識を持つ。

以上、現場からの生の声は本当に参考になりました。

また日本体育協会が出版している小冊子の中で、望ましいスポーツ指導者とは専門的な知識・技能や高いコーチング・能力の提供だけではなく、少なくとも次のような点に対応していくことが求められる。

①コミュニケーションスキルを身につけ「受講者の話を聞く」「叱るより良い点を誉めて伸ばす」「教えすぎず受講者に考える力をつけさせる」「責任をもたせる」など受講者のやる気と自立心を育てるためのサポートをする。

②マナー・エチケットなど道徳的規範を身につけさせるためのサポートをする。

③個々人の年令・技能・要求にあった最適な指導を行う。

そして自ら研鑽に努め、社会に評価される指導者を目指していかなければなりません。

そこで今シーズンの教育本部の具体的な活動指針として次の三点を掲げました。

①スノースポーツの多様化への対応

②求められる指導者像についての研修と実践

③公認スキー学校のあり方についての研究と実践

この三点を基軸に各種研修会やセミナーに参加していただき、意見交換・自分自身の知識の向上・人と人とのふれあいの場を作っていただきたいと思います。そして今後、進化し続ける受講者に対し十分対応していくとともに自然の中において安全と楽しさを提供するエキスパートをめざしていくことが、今まさに求められているスノースポーツ指導者像につながるのではないのでしょうか。今後、全日本スキー連盟におきましても理想のスノースポーツ指導者の育成に向けて、活動していく所存であります。それにつきまして日本スキー指導者協会の方々のご協力をお願いいたします。



(財)全日本スキー連盟  
教育本部長 五十嶋博文

## ＝世界のスキー指導者が最新指導法・理論を発表＝

4年に1度、世界中のスキー指導者・スキー教師が集まるインタースキー。

日本では1979年に蔵王、1995年に野沢温泉で開催された。そしてこのインタースキー傘下にある3つの組織（現在はそれぞれ“連盟”を名乗っている）がI V S I（国際スキー指導者連盟／スキークラブを中心としてアマチュアのスキー指導活動）I V S S（国際学校体育スキー連盟／学校・大学の教諭などによるスキー指導活動）そしてI S I A（国際職業スキー教師連盟／スキースクールのスキー教師の指導活動）である。

全日本スキー連盟はそのうちのI V S IとI V S Sに加盟している。

日本スキー指導者協会としては組織の構成・性格そしてその名称からいっても全日本スキー連盟を通じてインタースキー傘下の3組織の中ではこのI V S Iの情報や活動状況を把握しておくことをお勧めしたい。

今年の4月2日～9日オーストリアの高級リゾートレヒでI V S I総会が開催され、全日本スキー連盟から代表団として10名、視察団として11名 合計21名が参加した。

参加国は16カ国358名（北米やフランスを除くラテン系の国はスキーの指導をほとんどスキースクールで対応しているため加盟していない）今回参加したのはドイツ、オーストリア、スイスの中央ヨーロッパのアルペン国、そしてそういった国を囲むように北欧・東欧の国々、更にはオランダ・イギリスなどのいわゆる“雪なし国”そしてアジアから日本と時期インタースキー開催国の韓国である。

前回ポーランドで開催されたI V S I総会は「検定」がテーマとなったが今回は「技能・技量・技術を通じて“できる”喜びを」というタイトルで「指導」が大きなテーマとなっている。

オーストリアは開催国としてあらゆる分野の指導者を用意できるため、デモンストレーションもワークショップも多彩な発表となった。アルペンスキーはもちろん、クロスカントリー、テレマーク、バックカントリー、フリースキー身障者・子供そして最後は地元レヒスキースクールの受講生まで加わってのデモンストレーション。講演ではアルペン王国らしくワールドカップのS Lトップレーサーの滑りを分析し、ターン後半での過度な後方への荷重が次のターンへの推進力となっていることなどの発表。最終日にはワールドカップの応援団として活躍している子供の楽団まで登場して会場を盛り上げた。

ドイツは「成功までの12の道のり」と称して、指導レベルを細かくわけて12通りの指導として発表。ドイツらしい精密できめの細かい

内容であった。

ポーランド、ハンガリー、ベルギーはあまり最新のカービング要素を用いない極めてオーソドックスな発表となった。しかし、東欧はスキー産業がまだまだこれから伸びていくことが予想され、ベルギー、オランダ、イギリス、デンマークはインドアスキー場の増加に伴いスキー指導者の要請が急務となっているため、見てもスキーへの熱意が感じられた。また、最終日に往年のオーストリア、ドイツを代表するデモンストレーターによる「70+」という発表があり（70歳以上のデモ）ローテーション、バインシュピール、ステップターンから最新のカービングターンまで披露し拍手喝采、日本だけではなく世界中どこでも“年配スキーヤー”は元気なようだ！

日本の発表はワークショップを若月・中田・佐伯（当時）の3人のデモが担当、講演はS A J教育本部イグザミナー委員会の市野先生が発表した。結果としては内足主導（トップコントロール）が斬新で興味深いという評価（ベルギー、スイス、ドイツなど）を得た一方、「やはりスキーは今も昔も変わらない。やっぱり外足がすべてだ！」（オーストリアのベテラン指導者）という“頑固一徹”な意見もあった。

日本は今や指導者の人数が多いアジアの国というのではなく完全に世界のスキー指導の“トレンドセッター”として認知されていることを痛感した。

今回の総会は2007年1月27日～2月3日、韓国ヨンピョンスキーリゾートで開催される。インタースキーのプログラムの一部として開かれ、その2年後の2009年は再びポーランドでの開催が予定されている。

日本スキー指導者協会の皆様には韓国でのインタースキー、あるいは2009年のI V S I総会にできるだけ多くの方々にご参加いただき世界のスキー指導の実態を“体験”していただきたいと思っております。



I V S I (国際スキー指導者連盟) 副会長  
(財)全日本スキー連盟

教育本部 国際渉外委員長

田 和夫



## I V S I 視察団に参加して

◇ 期日 2005年4月2日～4月11日

◇ 会場 オーストリア(レッヒ他)

オーストリア、チロル地方の広大なアールベルグスキーエリア。スキー場の大きさに感銘。天候に恵まれ素晴らしいパノラマを堪能できました。スキー先進国の指導者の技術、考え方、指導方法について、言葉の壁はありましたがワークショップに参加し、内容については自分なりに理解できました。各国の指導者との交流もスキーという共通意識も有り心が通う交流が出来たと思います。特にビールがおいしかった。



今回参加して各国の指導者のスキーに対する情熱を感じました。

また、参加して宝物を得る事が出来ました。

1) 1992年アルペールヒルオリンピックダウンヒルゴールドメダリストパリックスさんに会え写真を撮る事が出来た。



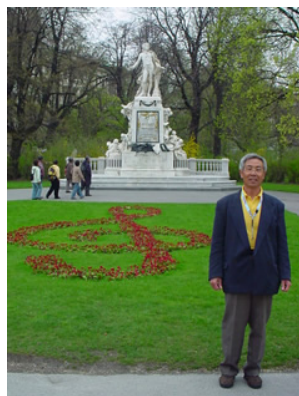
2) ウィーン滞在中、世界の名指揮者、小澤征爾さんに会えお話ができた事。



3) 運営に携わられた、全日本スキー連盟役員各位、及び関係各位の皆様と愛媛県スキー連盟の方々にお会い出来た事。



以上、私のスキー人生の中で3つもの宝物が得られました。今回のツアーにお礼を申し上げます。ありがとう御座いました。



神奈川県スキー指導員会  
参与 島村 一男

photo KShimamura

## 特集

## 極限の速さと華麗さを求めて—近代スキーにみる進化と合理性



**水島** お手元にあります資料を参考にしながら講師のご紹介をさせて戴きます。この会では、今までと違いご参加の会員の皆様方にも随時討論に参加して頂くために、この度は「フォーラム」という形をとって参ります。どのようなことにも明快にこの3人の先生方は答えることができますので、楽しみにしててください。

それでは、先ず、初めに

澤田敦さんをご紹介いたします。先生は、ワールドカップ、オリンピック代表として輝かしい戦績を残してこられました事は、皆様方よくご存知の通りでございます。競技引退後はデモ選に参入しまして、これまた大旋風を起こしました。第13回デモ選で「速いことは美しいこと、速さは魅力だ」と小林平康さんがスローガンを掲げて、初出場ながら5位に入っております。その系統を受け継いだのが、この澤田さんです。澤田さんは今までの、基礎スキーの極致とした美しい滑りから、速さプラス美しさというものをひっさげて揚々と乗り込んで行きました。後ほどいろいろと伺います。

次に、

塚脇誠さんをご紹介いたします。彼も、もうお馴染みで、3年ほど前に、この講演会の講師としてきて頂きました。そして、本会の理論武装のアドバイザーや、ティーチングセミナー、プレシーズンのトレーナー講師としてご貢献頂いております。従来、名選手、名デモが監督やコーチ、審判員に就任するのが一般的ございました。また、判定を受ける側も、あの素晴らしい選手、プレーヤーに採点されるならば自分は結果に納得できる、というようなことがよく言われております。私の知りうる限りではある国では、国家認定資格がなければその国のコーチ監督に就任できない、といった話も聞いていますがこの辺りは塚脇先生に後でゆっくり聞いてみたいと思います。

最後になりましたが、真ん中の秋田美人をご紹介いたします。

高橋育美さんです。彼女は、あまり、皆さんに顔や実績が知られていないかと思います。まだまだ若くて、つい最近25歳になったばかりです。そこで、高橋さんには現役の選手としていろいろ伺ってみたいと思います。ちなみに、2005年度、技選で、小回り急斜面種目では第3位の成績をゲットしておられます。これはデモンストレーターの山田康子さんと同位の成績でございます。山田康子さんをご存じの方は沢山居られることと思います。高橋育美さんは近い将来1～2年で、全日本の女子

パネリスト

澤田 敦

元オリンピック選手 /SAJ元オリンピック選手

高橋 育美

競技スキーから技選に挑戦中

塚脇 誠

元全日本ナショナルチームコーチ

コーディネーター

水島 秀夫

神奈川県スキー指導員会会長

のデモ選ではトップクラスに入っていくと囑望されております。どうぞ宜しくお願い致します。これで私の方からのご紹介を終わりますが澤田さんの方から自己紹介をお願いしたいと思います。

**澤田** 皆さん今日は、今、紹介されました澤田でございます。昨年のこの会にお招き頂きまして、講演させて頂きました。今回は、私を含めて3名おります。最初、会長から議題を渡されておりまして、いろいろな項目があったのですが検討の結果、本日のようになりました。皆さんにも大変興味の持たれるトリノのオリンピックが来年2月に開催されます。「スキー界(競技分野)に関わるトップニュース」①トリノを目指す競技プロヘッショナルの分野におけるトップ技術ということですが、大変に難しい議題かなというふうに考えております。できるだけ易しく皆さんにわかりやすいように話しますので最後までよろしくお願いいたします。



**水島** それでは真ん中の高橋さんお願いします。

**高橋** 初めまして、高橋でございます。今回、このような席にお招き頂きまして大変うれしく思っております。技術選の方でも、新参者でして。指導者としても、昨年指導員を取得したばかりですので、皆さんの方が先輩になるので、今日はお話するような身分ではないのですけれども、今まで、競技スキーを長年やってきた経験と、これからの抱負も交えて少しお話できればなと思っております。今日はよろしくお願い致します。



**水島** ありがとうございます。続きまして塚脇さんお願いします。

**塚脇** 今日は、塚脇ですよろしくお願い致します。今日は、午前中ティーチングセミナーというのがあって、ちょっと疲れ気味なんですけど、よろしくお願い致します。本日は、澤田さん、高橋さん、ということで、日本のトップ選手、ワールドカッ





プ、オリンピック、世界選手権といろいろ経験されてきた数少ないトップスキーヤー、それから、これから、トップに立とうという若いプレーヤーというお二人から、僕の方がいろいろとお話を聞きたいと思って楽しみにしましたのでよろしくお願い致します。

**水島** ありがとうございます。テーマに入る前に、ご紹介したい方がおります。「山と溪谷社」の大滝記者が見えられておられます。

**水島** 彼が、本日の、このフォーラムを取材に来ておられます。掲載は12月号ですか？

**大滝** 11月か12月号です。

**水島** 11月か12月号に小さく掲載されるそうです。(会場笑い)

**水島** それから、東京都指導員会から美女軍団が来ておられます。

美女軍団、ちょっと立ってみてください。監督も一緒に(歓迎の拍手)

**水島** という方々にご参会頂いております。ご紹介を終わって、これから本題に入るわけですがけれども、このテーマの途中でも、皆様方から、自由にどんどん、意見、それから疑問・質問を投げかけて頂きたいと思います。

**水島** 「**極限の速さと華麗さを求めてー近代スキーにみる進化と合理性**」ですが、このタイトルを決めるに当たって、私ども指導員会の叢智を集めて決めたわけですが。この「極限の速さ」とは、トリノを見据えて競技スキーの分野を、そして「華麗さ」は、今度、苗場に場所を移しますけれども、その技術選をイメージしております。

用具の進歩に伴う技術の進化に、どんな合理性があるか、ということを検証したいという意味があります。それでは、**I「スキー界に関わるトップニュース**」これは、最近、スキージャーナル、スキーグラフィック、それから山溪ですとかね、いろいろ雑誌がありますけれども、沢山出てきます。

まず、1番目にですね「**トリノを目指す競技プロフェッショナルの分野**」。これは所謂、トリノのオリンピックを目指す選手のことですがけれども、こちらについて、実際にご自身が経験されております澤田さんからお話をお伺いしたいと思います。よろしくどうぞ。

**澤田** 冬季オリンピックは、来年の2月にトリノで行われる予定になっています。

アルペンの世界の中では、今、佐々木明選手はナンバーワンになっていますが、それに皆川健太郎選手が続いています。彼は、新潟のアルビレッツという名前でチームを結成しており、カザマスキーにおられた大出さんが監督になっています。大出さんは妙高のスキー&スノーボード専門学校の校長でもあり、そういった関係で、講師にかつての選手も何人か入っています。チームの方がたは普段見ると、「なんだこの若造は？」っていう感じなんですけれども、非常に真面目にトレーニングしてびっくりするぐらいでした。「目標は何？」と訊いたら「ワールドカップに出ることです」と真面目な感じで話をしていました。そういう選手がおそらく次の時代に入ってくるのではないかという風に思います。

10月の後半からワールドカップがオーストラリアの水河で始まり、第2戦、アメリカ、カナダと転戦して、2月の10日ぐらいからオリンピックが始まります。終わった後に、志賀高原の焼額山でスラロームのワールドカップがあります。3月の10・11日で、これは第2

戦です。今まで、ワールドカップと技術選がぶつかっていたのですが、今年は技術選が1週間後になります。

スラロームは2戦あり、ちょうど3月の連休の時に技術選が開催されますので、選手達はこのワールドカップの選手の、フリースキーの感覚を実際に見て、そういうイメージで技術選に参加すると、フィーリングなども新しいイメージの滑りも出てくるのではないかなと思っています。

**水島** ありがとうございました。今の件について高橋選手にお願いしたいと思います。

**高橋** オリンピックでは、フィジカル的にもテクニク的にもメンタル的にも、全てのタイミングが合わないと金メダルは取れません。うまく照準をオリンピックの一日に合わせ、ベースになる基本的なフリースキーや、基本トレーニングをきちんと積み重ねた上、メンタルの部分やマテリアルの部分といった要素がうまく噛み合わさないとビッグサイトに応ずることが出来ないと思います。

佐々木明選手と、皆川健太郎選手が、二人とも同じように話していましたが、夏場は基本トレーニングをとにかく重視してやる。フリースキーにきちんと時間をとれないと、今、速いスキーができていても、後から問題が発生したときに解決することができない。また、世界を舞台に戦う選手達には、少しタイプの違う何台かのスキーがあって、その中から夏場の内にきちんとチョイスできないと、大会が始まってから不安が出てくるので、今の時期にきちんとマテリアルをチョイスして、不安要素を少しでもなくし、基礎的なトレーニングを積むことによって、オリンピックの2月にうまく照準を合わせていくことが、オリンピックで活躍するための必要な条件だとのことでした。

**水島** ありがとうございました。それでは、実際に塚脇さんの方からは、ご自分で体験された世界選手権のコーチの立場とか、現在、大学で教育されている、そのような立場からお話願いたいと思います。

**塚脇** 私の方はちょっと立場を変えて、指導者ということでお話しします。私は大舞台に立ったことはありませんが、コーチとしては世界選手権99年バールで行われたアメリカの世界選手権に選手を連れて行っております。

その年、1年間コーチとして活動したわけですがけれども、今も昔もメダルをとる、勝とうと考えたら、あるべき事を確実にこなしていくこと、それが何かの理由でこなせなかったら、勝つことはできないと言えます。

日本の選手と外国の選手と何が違うのか。多分選手の資質はほぼ同じです。違いは周りを取り巻く環境です。コーチの立場から考えると、まず、選手であれば、最低15年以上のトレーニングの計画が必要になります。それが日本には未だない。出来



ないと言った方がいいのかもしれませんが。全日本の強化の方でもやられているとは思いますが、うまく機能していないように思われます。

それと、当たり前のことですが、名選手＝名コーチ・名監督ならずということ。たとえワールドカップで勝ったとしても「お前はワールドカップで勝ったけれどコーチとしてどこで勉強したの」と相手にされません。なぜかというと、10年15年という長いトレーニング計画が選手一人に対して計画され、その選手が力を発揮することができなければ、その原因として、どういう風に計画され、どういう形に最後に花が咲くのかという過程がわからないからです。日本の場合には指導者の資格を取るということはありませんが、コーチに関してはに等しい。ここの部分をまず何とかしなければいけないと思います。後は、小さい小学生の頃からからオリンピックでメダルを取る23・4・5歳になるまで、女子だと22歳ぐらいまで、1年1年ではなくて、10年15年かけてピークを迎えるような計画がどれだけできるか、一つひとつ確実にやっていかなければうまくいかない。それをやっているチームがメダルを獲得できるのです。

**水島** ありがとうございます。何かずいぶん長い期間を専門的に行わないとオリンピックではメダルを取ることができないとこのような事が改めてわかりました。ここで皆様方の疑問に共通する質問を私の方から出してみたいと思います。

S A J のホームページを見ますと、ナショナルチームのメンバーが登録されています。その中でA・B・C・Dというランクがあるのですけれども、このランクの付け方はわかりません。実際にその体験がある澤田先生いかがでしょうか？

**澤田** 私も、今のランクの付け方は、よくわからないのですけれども、おそらく、ポイントと年齢と将来性などから出てくると思います。私は、選手の寿命をもう少し長く考えてほしいということを提案したいと思います。これは以前から言っていることなのですが、年齢の若い内にランクを早くつけすぎてしまう。我々がレースをやっていた頃は25・6ぐらいで引退していたのですが、今は、大体30以上です。そして成績もずっとコンスタントにトップの方、第1シードを維持している。それは、選手の管理、選手の自己管理も含めてですが大変優れてきていると言えらると思います。日本の場合には、たとえば、高校から大学4年間過ぎてしまえば、そこで選手として終わってしまったたり、高校を卒業した段階で、ある程度成績が出ていても、その後の金銭的な協力がなければ、次のステップにいけない。たとえ計画があっても、その計画に乗れないという部分も出てくる。選手は沢山居るけれども、舞台に上がってこれない人もいるし、上がってきても、すぐに降ろされてしまうということもあります。これを、もうちょっと長い時間をかけながら選手の育成に当たってもらいたい。ある意味ではじっくり構えていられる体制ができればいいと思っています。

**水島** ありがとうございます。S A J のホームページのですね、ランクを見ていまして、その中に男子は岡田健、女子は湯本選手、この方がナショナルチームにランクされているのですよ。で、所属はどこかなと私ちょっと興味があったんで調べました所、二人とも天山リゾート所属なんです。で、これは、雪無し県に天山リゾートはあるんです。九州にあるんですね。で、本当に、ここのスキー場で二人とも実際に育ったかどうかということを知りたいんです。彼らがそこで育ったの

か、本当の出身地を知りたいと言うことです。

**高橋** 湯本宏美選手は、元々は長野県の山之内町の出身で、志賀高原でずっとトレーニングをし、その後、日大に入学してずっと頑張っていました。けれども、今の日本のスキーの環境では、ナショナルチームに入っていないと大学を卒業すると同時に引退するっていう選手が多い。なぜならば、スキーを続けられる環境がないからで、私は卒業してから1年間、現役を続けましたが、親のすねをかじってお金を出してもらえたのでスキーができたという状況です。湯本選手と、北海道の釧路の出身の岡野選手の二人は、今、佐賀県の天山リゾートの所属で、天山リゾートの宣伝をすることで遠征費を補助して頂いているという形になっています。ほかにも福岡県の324スキークラブという所で、水尾大介選手、本田宏選手、土井俊之選手の3人は北海道出身ですが、南の県の方にスキーの環境を求めて頑張っています。

要するに、北の方ではスキーをやっているのが当たり前という考え方ですが、南の方で、お金を出して選手をバックアップしてくれるという環境を求めて、条件の整った所に移って居るんだと思います。

**水島** はい、ありがとうございます。そういうことなんだそうです。実はですね、天山リゾートの社長さんは、神奈川県出身の方です。そして今、二人ともシーズン中は野辺山で滑ってるわけですよね。そんなわけですので、まあ、所属だけ見て「あ、南の国で育ったのになあ、すごいな」と、こういうことはちょっと今の時代ではないんですよということを皆さんに代わって私が質問した次第でございます。もう一点、高橋さんにお伺いします。妹さんはジュニアナショナルチームに入っておられるんですか？

**高橋** ランキングで言うと「ジュニアB」というカテゴリーになるんですけれども、昨年、高校へ入学したと同時に、ナショナルチームの方で選んで頂いて、今、明後日から千葉で陸上トレーニングを二日間ほどやって、その後、9月の10日から1ヶ月半ほどかな、ヨーロッパの方にトレーニングに行くことになっています。

**水島** ということだそうでスキー一家の高橋家ですね。それでは次のテーマ、②「国内外のスキー技術選の分野での技術の違い」は有るんだろうか無いんだろうか。こういう所についてお話を訊いていきたいと思っています。それでは、この件について、高橋さんどうでしょうか。

**高橋** 今、海外と日本の技術の目指している所には差はないと思っています。それは、アルペンスキーとか競技スキーとか基礎スキーとかいうカテゴリーを取り払ったときに、世界で一番いい、或いは効率のよい滑りをしてるのはワールドカップのトップレーサーで、その滑りを真似てというか参考にして表現しているのが日本の技術選であり、世界と日本の目指している技術は、全部、ワールドカップのトップレーサーの滑りが参考になっているからです。

**水島** はい、ありがとうございます。次にⅡ「アルペンスキーとは何か。どのようなスポーツと捉えているのか」ということについて、お話を伺って



いきたいと思います。その前に、今までの所で皆さん方からご質問ご意見有りますか？有ればどんどん言ってください。

平賀さんに息子さんや娘さんがおられて、選手として活躍しておりますが、その辺の実際の体験からの質問はありませんか。

**平賀** 質問をまだ整理していないので後ほどに。

**水島** はい、それではですね、質問の方がまだ固まっていないそうですので、後ほどでも結構でございます。まずⅡ「アルペンスキーとは何か。どのようなスポーツと捉えているのか」とⅢ「トップレベルのテクニク」についてこの辺が一番皆さんが関心が有ろう所かと思います。この二つテーマを一緒にして、行ったり来たりしてもいいですので、伺っていきたいと思います。それでは「トップレベルのテクニク」ということにつきまして最近のスキー雑誌で、これでもか、これでもかという風に特集を組んで、トップスキーヤー達が、いろいろな角度からお話をされております。これらの技術論について、全日本スキー連盟が、我々に伝授してくれるのか。さもなければ、こういう雑誌を読まなければ知識を得られないのか。これまた難しい問題になります。この辺をちょっと討論していきたいと思います。その辺りについてですね、まず、「アルペンスキーとは何か。どのようなスポーツと捉えているのか」について、塚脇さんから訊いてみましょう。

**塚脇** 私が捉えているスキースポーツというものは、スキーは、自然、雪山と戯れるための道具の一つであり、その道具をどうやって使うのか、そのやり方がスキーである、ということです。より楽しく、より安全に遊ぶための道具がスキーで、それがスポーツになっている、という風に捉えています。これを日本にスキーが伝来したときにちょっと取り違えてしまって、最近の技術偏重の根源になっているのではないかと考えています。実際に「ひげの殿下」がこのようなお話をされ、そういう風を書いておられます。私も、ああそうだなと思います。ほかにも雪と遊ぶための手段はいっぱいありますが、その中の一つがアルペンスキーという風に考えていくことが、我々が楽しんでするスキースポーツの根源ではないかと考えています。

**水島** はい、ありがとうございました。今度は真ん中の高橋さん、どうでしょうか。

**高橋** 自分にとってアルペンスキーって何だろうと考えたときに、本当に当たり前に自分の中に有りすぎていて「何なんだろう？」って、生まれて初めて自分の中で向き合った感じです。これまで競技スキーをやってきて、とにかく、ポールを練習して、フリースキーをやって、テクニク的な研究してと、自分自身スキーに追いつめられていたとまではいかないまでも「結果を出さなければ」というような事ばかり考えていて、スキーそのものを楽しめていなかったように思います。昨年から競技スキーを止めて、インストラクターなどの活動を始めたことによって、自分の中に余裕が生まれ、テレマークスキーをやったり、ハーフパイプに入ったり、レールに乗っ

たり、今までは怪我をするんじゃないかという不安でできなかったいろいろな「スキー遊び」を体験して、「こういうのもやっぱりスキーなんだな、スキーってやっぱり楽しいな」と、初めて感じた先シーズンでした。自分でスキーが楽しいということを感じることができなければお客さんや、選手に指導するときに楽しさを教えることができないと思います。自分がスキーの楽しさを体感できたことによって、こういうことを多くの人に伝えたいと思うようになりました。

**水島** はい、ありがとうございました。Ⅱ番、Ⅲ番ごちゃごちゃにというお話をしたんですけど、Ⅱ番、Ⅲ番という捉え方になっているようですが、澤田さん、どうぞ。

**澤田** 私は「競技スキーにおいては、スキーを踏み込むな」という事についてお話しします。今は、カービングスキーになって、抵抗を与えると深く回る性質があります。負荷をかければかけるほどスキーは山側へ曲がり、回り過ぎてしまいます。例えば競技選手は、落下に対する抵抗を受けるのに必要な分だけ力をかけますが、上体から一生懸命スキーに力を与えてターンをしようとすれば、スキーが回りすぎてタイムをロスしてしまいます。使い方としては、落下するものに対してスキーで力を受ける分の抵抗だけでスキーを回す。そして上体は、次のターン方向に素早く移動させるという技術が必要で、できるだけスキーを踏み込まない、というのが原則になってきます。

技術選の大回りで、今年は不整地を使いましたが、一生懸命スキーを踏み込もうとした人は、雪を捉え過ぎてしまって、きっかけを失ってターンが後半の荷重オーバーに繋がってしまいました。トップにいった選手は、スキーを踏み込まずに体が落ちていく分の力で捉えていて、上体を早く次の方向に移動しようという使い方をしています。競技も同じ使い方です。スキーを一生懸命踏み込むと、体感的には後傾になりがちです。椅子で支えて、ぐっと踏み込む動作をすれば、骨盤は後ろに下がり、後傾になります。前傾のポジションは、パワーポジションと言って、斜面に対して上体が前向きになった状態。少し低くなって構える。背筋を曲げずに伸ばして、何時でもどんな体制でも素早く動けるポジションです。各関節が90度から120度の角度を保っているとパワーが素早く発揮されるポジションが生まれると言われております。このパワーポジションをつくりながら、できるだけスキーに抵抗をかけないで重心を次のターン方向へ素早く移動する動きを使っていくことで、体の動きにスキーがついてくる効果が生まれます。但し、頭からではなく、足から腰、できるだけ速い動きを腰から重心移動をしていく。頭から行くと、肩が回ったり、ローテーションになったりという現象が起きてしまいますので、腰を中心に移動していく動作がいいと思います。

**水島** ありがとうございました。「澤田スクール」には、佐藤久哉さん、中田良子さんの両デモが在籍していますので、その師匠ですから、その辺を一番詳しくご存じだったんだと思います。今の話を伺っていますと、私の目の前に座っておられる、石川さんとか福沢さんの滑るイメージが浮かんできたんですよ。そのようなことで、大変興味あるお話を伺いました。トップレベルのテクニクということについて、先ほど

澤田さんは競技の分野から、分析されました。今度ではですね、「技術選に見るトップレベルはどのようなものか」といことについて、お話を伺っていききたいと思います。まずこれはですね、3年ほど前から「内足論争」、それから、つい最近はというと、昨シーズンからでしょうねえ「**内軸と外軸の使い分け**」について、嶺村選手などは、一所懸命、雑誌の中で解説しており、DVDで動きを見せてくれています。嶺村聖華選手の5連覇というのはあるのかなのか、これを阻止するのは、高橋さんがどうなんでしょうかね。と言うようなこともありまして、嶺村選手のテクニックについて、高橋さんから伺いたいです。

**高橋** 女性は骨盤の形からかお尻が内側に入り過ぎる。お尻が内側に入ることによってターンの始動のきっかけを作る滑りを、かつて嶺村選手もやっていましたが、今は、骨盤がきちんと内側に向いていて、体もきちんと内傾が作れています。ターンの前半のきっかけの作り方がとても上手な選手だと思っています。もう一つ上手だと思っている所は、両スキーできちんと雪面を捉えている所、自分から常に両スキーに対して働きかけ続けられている、女子選手の中では限りなく少ない選手の一人だと思っています。昨年、技術選で、小回りをやった後の、ぼぼこの斜面で大回りをやりました。その時の感覚を「**中心軸運動感覚で滑りました**」というように嶺村選手が書いていました。これは、私も同じで、**整地バーンに対しては「二軸運動感覚」「トップコントロール」と言われるような形での滑りになっています。**悪雪・パウダー・不整地・ナチュラルバーンと呼ばれるような所

では、感覚的には中心軸です。常に体の真下にスキーがあるという感覚。二軸になるとどうしてもスキーが外に離れてしまうので、スキーをコントロールできなくなってしまう。整地であれば外力を沢山使うためにできるだけ内傾角を作って遠心力などの外力を多く使うように気をつけています。その雑誌の嶺村選手の話の中で、私が「**ちょっと違うな**」と思った所は、悪雪であれば、スタートからゴールまで外軸をきちんと使った滑りという所は同じですが、整地のときには、嶺村選手は「**内軸を使った滑り**」という表現でした。私の場合は、**内軸も外軸も両方使う滑り**。だから2軸、ターンの前半は内軸を使い、ターンの後半は外軸も使う感覚です。内軸をターンの後半まで使いすぎると、体も一緒に回りすぎてスキーが横を向く時間が長くなります。スキーは重力による落下運動ですので、できるだけトップを下に向けた方が速く滑れます。技術選の中でも、スピードが強く求められています。ターンの後半まで内軸ばかりを使ってしまうと横を向きすぎるのでスピードが無くなってしまいます。できるだけ体をフォールラインに一番落下する方向に向かって落とすことによって、ターンの後半はやや外軸も使った、「**くの字姿勢**」のような感覚も少しある中で次のターンで内軸をより使いやすくなるという感覚で滑っています。

**水島** ありがとうございます。この件について塚脇さんの方からどうでしょうか。

**塚脇** スキーにとっては、このエッジの切り替え、アルペン競技の世界は、ここが速い遅いを決める所。スキー

は踏み込めば踏み込むほどたわんでエッジングしていきます。挟り込んでいきます。それは減速になります。できるだけ「**エッジを立てない、踏まない、押さない**」というのが今の競技の鉄則です。また、昔あった「基礎パラレルターン」。あれが世界を制する技術ですね。あれ以上速いテクニックは、まずないでしょう。エッジングする・角を立てる・スキーを踏む・たわませる・スキーをスイングする・回す・ずらす等の操作をしていないのが基礎パラレルの所謂「ニュートラルポジション」と言われるもので、斜滑降でもない、ターンもしてない、スキーがフラットの状態。私は「スキーの自然体」と言えますけれども、スキーが完全にフリーになっている状態。落下運動を最高に使えるのは基礎パラレルターンの中にあった「**ニュートラルポジション**」に集約されていると思います。トップ選手のシュプールを見れば一目瞭然です。オーストリアのBチームはヨーロッパカップで戦っているこれからワールドカップで戦う20歳前後の選手。Cチームはオーストリアのジュニアの選手。エッジングの長いのはCチームの選手。エッジングが短くてスキーがフラットの状態、要はニュートラルの状態が長いのはBチーム。ワールドカップの選手になれば更に短くなります。

**水島** はい、ありがとうございました。ここで高橋選手にちょっと質問したいんですけどこれは多分皆さんそう思って居ることだろうと思うんですが、先ほどの2軸という話の中で、あまり何時までも内腰先行にしていくとちょっとまずいのではないかというお話がありました。更にですねスキージャーナル10月号に伊東秀人さんがディレクトしておりまして、トップデモ3名ですね連続分解写真により「**アンティシペーション**」という言葉を使って解説しております。これは皆様方おわかりになりますよね。要するに、まあ、昔流で言うと順の落とし込み、もっとはっきり言うと回し込みですね、上体の先行動作ですね。今高橋さんに質問してるのは、更にこういう上体の先行動作が加わってきますと、この先どうなっていくのかとそういうことについて質問したいです。

**高橋** 上体の先行動作ですか？

**水島** 上体というか腰それから肩、上体を含めて先行動作ですね。これは佐藤、柏木、丸山デモの連続分解写真ですね。こういう動きがこれからのトレンドになるのでは無かるかという点についてです。

**高橋** 女子選手はヒップがインサイドに入り過ぎる。そして、次のターンの始動時に逆のヒップがインサイドに入る。動きが大きくなってスキーの捉えが遅くなってしまう。ターン前半にきちんと内向すると内スキーのインエッジが掛かりやすくなり、速いエッジングが可能になって、早くターンを始動させることができます。ターンとターンを繋ぐ切り替えの速さがとても重要で、余計な動作が多くなるとターンが無駄に長くなってしまいます。

**水島** ええ、なかなか実際の動きを見ないとですね解らないので、高橋さんは大変プロポーションも宜しいですから前のスペースでは是非お願いいたします。私はこうやって滑りますよって言うのを（拍手）。

高橋 照れながらも実演。(聴衆大喜び)

澤田 外傾というのはどうなのか。内向は、内側を向く事。

水島 ターンの後半からやってください。山回りに入るところから、更にマキシマムからターンの後半に入る場面では。



高橋 はい。まず、先にヒップがインサイドに入ってくると言ったんですけども、こういうふうにも、よく分解写真とかで見るとですけども、こういう風にヒップでインサイドに入っていって・・・。

澤田 骨盤が外向しているところが適切にみられる・・・

高橋 お尻がこう出ちゃって、次のターンもこういう風になって、余計横の動きが多くなる。これは無駄な動きだと思います。今年チャンピオンになった嶺村選手の前の滑りを分解写真で見ると、以前は実際にこう滑っていました。これはやっぱり無駄だと思います。今、聖華さんの変わってきたのは、教程に「トップコントロール」「内傾・内向・内スキー主導」と書いてありますが、お尻が内側に入るのではなく、骨盤がきちんと内側を向くのが内向。内傾は、これが真っ直ぐだとしたら、ここから内側に傾く。これが内傾です。内向と内傾が組み合わされたときに内スキーがきちんと使える内スキー主導になります。聖華さんの滑りはこう変わっています。

「内スキー主導」は「内スキー始動」とは違います。私は、二軸の時に内軸と外軸を両方使いたい。前半は「内向・内傾」をきちんと作って内スキーで始動する。けれども、「内スキー主導」では、最初から最後まで内スキーが主導権を持ってターンしていきます。すると、内側に向きすぎ、横に引っ張りすぎてスピードが無くなってしまいます。私は、ターンの前半は「内向・内傾」で「内スキー始動」。内スキーで始動したい。体の中に入ってスキーが内側に行くのではなくて、フォールラインに体を落とし込むことによってスキーを早く下に向きたい。それによってスキーがどんどんスピードが増してくる。その時に又、内スキー。「内傾・内向」をきちんと作って「内スキー始動」を始めるっていう事です。

水島 ええとほかに・・・ここが大切なポイントだと思うのですが、どなたか質問ありません？ ありませんか。じゃあ、今と同じように出来ると言うことで宜しいですね。大澤(名誉会長)先生、来年からマスターズ大会でこのテクニックを駆使して挑戦されては・・・？

大澤 若い人のまねをしてはだめ。怪我をするよ。年寄りにね、真似させちゃ駄目よ。

水島 シルバーはそれなりに「安全・確実に・楽しく」大会をエンジョイしましょうと言うことですネ。後30分しか時間がないんですけども、今の話をちょっと進めて、来年の「技選で覇者になるためのテクニック」について考えて見ましょう。

これは、今、答えが出ていているように思うんですけども、嶺村選手の滑りを、それよりも遙かに上に行けば勝てる

んじゃないかと、まあ、こういう気がするんですけども。高橋さんどうでしょうか。

高橋 これの答えが分かれば来年にでも勝ちに行きたい所なんですけれども、やっぱり、トリノで金メダルを取るのと同じで、これにも、それなりの準備が必要だと思います。昨年、全日本技術選の決勝小回りだけは3位でしたが、総合では11位でした。3回出場してやっと3回目で初めて決勝に残ることが出来たのですが、過去の2回の大会は競技スキーの延長で、競技スキーの技術をそのままやっていましたが、それじゃだめだと気づいて昨年は技術選のために準備してきました。それで決勝に残ることが出来たと思っています。段階を追ってやっていくためにも、今シーズンは必ず6位入賞を目標に。来シーズンは出来るだけ表彰台に上れるように。3年後には全日本の技術選で表彰台の真ん中に立ちたいと思っています。これから「三年計画」で準備をしていきたいと思っています。だから、まずは嶺村聖華選手、佐藤久哉選手に一步でも近づけるように、今、説明した技術をきちんとマスターすることが、まずは近道かなあとと思っています。

水島 はい、ありがとうございます。そんなことで是非頑張ってもらいたいと思っています。今度の技術選で覇者になるための方向性ということについて、これは澤田コーチからですね、各選手の滑りをよく見られていると思うのでお願いします。

澤田 高橋選手の滑りはまだまだ荒いんです。この荒さは、競技選手は当然持っていなければいけないものですが、これがとれることが技術選でも、滑らかさやスピードの中での強さによって当然トップに出るひとつの要因になると思います。優勝というのは、各種目でトップに顔を出して優勝できる人。2・3・2・3・・・で優勝する人もいます。けれども、2番から10番、15番と下がってしまうと、優勝から離れてしまいます。如何に3位以内をコンスタントに獲っていく。各種目でトップは獲らなくてもいい。常に、自分の理想に近い滑りをコンスタントに出していく。例えば、ゴールしても一生懸命滑ると「はあっ、はあっ」と、肩から息が上がるような感じになりますが、平静な精神状態になると、ゴールしても「ふっ」と、息を抜いて、ずっとゴールから居なく人がある、そういう精神状態。要は選手にすると8分目ぐらいに滑ると結果的に良いと思います。

水島 それでですね、高橋選手のお土産になっちゃうと思うんですけども、中田選手との違いをちょっと解説してください。

澤田 中田選手との違い？ そりゃあ、中田選手の方がずるいよ。

水島 あ、ずるい・・・。

澤田 デモ選でトップに行く選手は技術選手権ではだんだん成績が伸びなくなる。要するに滑らか過ぎて、荒さが消え、力強さがなくなってしまう。気がちょっと弱くなってしまう。まずは技術選で勝負をして、その過程の中でデモ選で、とにかく7番に入って・・・。デモになってインタースキーに行き、世界のスキーを勉強するという目標もあると思います。



**水島** はい、高橋さんには大変貴重なアドバイスですネ  
ありがとうございました。

時間が5分過ぎておりまして、私も、コーディネーターとして大変焦って降ります。先ほど、澤田さんは、男子、特にオリンピックの技術はこういうものということを教えて頂きましたので、次は用意したテーマには「トリノではどんなテクニックが世界を制するか」これを用意してあるんですけども、少し核心に入ってどんなテクニックがトリノを制するのか塚脇さんに伺います。

**塚脇** 競技で勝つためには最短距離を回ってくるのが一番速い。特にカービングスキーは、踏めば踏むほど曲がります。曲がり過ぎます。角を立てれば立てるほどエッジは食い込んでいきます。当然スキーをスライドさせて進行方向を無理矢理変えていけば、変えれば変えるほどスキーは横ずれし、パイブレーションが起きてバランスを崩しやすい。ここがキーポイントになると思います。「トリノ」では、カービングスキー全盛の始まることで、スキーが短くRが強くなりました。前年に、トップ選手が、スラロームでスキーがぼーんと浮き上がって失敗していました。あれは下手になったんじゃないくて、前後のバランスがよりシビアになったからです。そこで、何かを企んだりするセッターの意図を読み、自分の長所を知って攻める人。自分の短所を知ってそこで守って確実にタイムロスをしなかった人が入ってくるのではないかと思います。それともう一つは、カービングスキーになって、体に非常に負担が掛かってきますので、怪我なくオリンピックにうまく照準を合わせられた人が有望ではないかと思っています。当然、日本の二人、佐々木、皆川も十分チャンスが有ると思います。このまま怪我をしないで、やるべき事を確実にこなしてベスト5に入りたいと思っています。

**水島** はい、質問が出ましたよ。

**平賀** 先ほど、質問をちょっと躊躇しました平賀です。今、トリノでどうしたら勝てるかっていうことが出ましたけど、ワールドカップで、スラロームの方ですけど、前期のスラロームのセッティングは、大分、ストレート系というか、あまり深く振らず、スピード系になったという。

それは、ボディーミラーが非常にターンがうまいから、ボディーミラーつぶしでそういう風になっていると。それから、佐々木明選手が、例の赤いスキーを履いていたのですが、あの赤いスキーも回りすぎたので、前半タイムが出なかったという事を言っていましたけれども今度のトリノでは世界の方角はどういうものか、また、それに合わせて日本のセッティングはどういうものになっていくのか。澤田先生、おわかりならば教えてくださいと思います。

**澤田** 今年度からセットの間隔、インポールからインポールのインターバルが15mから13mになりました。そして旗門数が55以上になりました。今までは、55プラス・マイナス3でしたが、これからは55迄確実に立てなければなりません。(旗門間も)13mになりましたので非常に短いセッティングになり、見ていておもしろいと思います。(スキーの長さは)男子は165cm以上。女子は155cm以上。(以前より)10cm長くなり、前後のバランスが確保されましたが、今度はセッティングとスキーの長さで選手がどういう風な状況になるかによって、また来年度のスキーの長さ、サイドカーブが変わってくる可能性はあると思います。

**平賀** 今年状況を知りたい。

**澤田** その辺は今年はまだ出ていません。ま、来年、また変わる可能性はあります。

**平賀** 振り幅については。

**澤田** 振り幅？それは解りません。振り幅って言うのはこの幅(板書)ですね。それはスキーのサイドカーブによってそれぞれ変わってくると思います。だから、さっきも言ったように、例えばオーストリーのコーチがセットすれば、オーストリーの選手に合わせた振り幅を当然するでしょうね。イタリアであればイタリアの。その斜面によってきまりまよネ。かなり振ってくると思いますそこでスキーの性能が条件によってどうであるかということを見るはずですよ。ですから、来年度またいろいろ用具が変わると思います。

**水島** はい、ありがとうございました。スキー雑誌というものは非常に興味深く面白いもので、スキーグラフィックの2005年8月号にですね、面白い写真が載っているんですよ(ページの写真を示しながら)この、一番上の滑り、は誰か分かりますよね。これはねえ、誰だと思っています。ここにいらっしゃるんですよ。これはかつての世界選手権の写真ですね。澤田さんの滑りなんです。1980年代ですからもう大体20年ぐらい前の滑りなんです。板も古いし服装も古いんですけどもね、1本目が30位から、まくりにくって17位まで上がったんですよ。そのとき一番上に日本の海和選手で16位。良く健闘されました。予定時間が20分弱になりましたけれども、我々が一番勉強したいこと指導法についてこれから少し議論させて頂きたいと思います。まず、本題に入る前に最近オフトレのトレーニングについていろいろと良い方法が語られております。4年前に金子裕之(元デモ)さんに「ゆる」という表現で講演いただきました。、また、最近「なんば」という言葉も聞いております。澤田さんは、最近整体術を極めたと伺っております。このトレーニングの方法、特に「ゆる」とか「なんば」だとか、極めつつあるのですか？整体についてもお話を伺いたいと思います。

**澤田** 今「なんば歩き」について大体解ってきました。普段、我々は踵をついて、つま先にこういう風に重心を移動させる。ところが最近「デューク更家」さんが言っているように、骨盤の下に足が来る歩き方をします。つまり、重心が移動した後



に足がついてくるという歩き方をすると自然に「なんば歩き」的動きになってきます。つまり、手が、こういう振りになっています。踵から歩くと、こういう風に足が前に出ますが、体が移動した後足がついてくる、つまり骨盤の下に足がくる。土踏まずと拇指球のあたりを床について歩いて、こういう流れをつくって移動していく。常に重心を前に移動し、それに足がついていって、こう動いていく。自分から足を出していく歩き方ではなくて、重心→重心→重心という使い方をします。(実演)

女性がお尻を回（振り）しながら歩いているのをよく目にします。今、こう歩いて、骨盤がこういう風に移動していくんですけども、常に重心を前に移動していくっていう使い方ですね。

**水島** それね、モンローウォーク。

**澤田** 骨盤が先に出た結果、足がこう出て行く。つまり、腰の下に足が来るような使い方を覚えておくといいでしょう。実はこれ、陸上の選手などでも、話題になっていますね。

**水島** この件について、塚脇さんからお願いします。

**塚脇** 「なんば」というのは、体が動かないという歩き方だと言えます。普通、歩くときには、我々はこう歩く。これは体が捻れてる。こっちの足を出す。こっちの足を捻って動きを止めている。要するにブレーキングとウォーキングこれを両方やりながら歩いて行くんです。こうやって我々現代の人は歩いている。昔の人の「なんば」というのは、捻らないで歩くと、重心が後ろにあって足が前に行かないんですよ。体を前へ倒してこうやって歩く（実演）。

さて、その次は、それを速くしていこうって言う時に、何がっていうと素早い動きで体が前に動いていくからその方が速い。

ラグビーの選手がタックルを一瞬にして逃げたい。そのときに「なんば」の動きをするのです。右に行こうとした時、普通人は左足を踏ん張って、こういう風に動く。これをしないで、このまんま、足を上げればいい。これが速い動きになります。

**澤田** 信号待ちで信号が青になった時に、どっちかの足を出す。その時に素早く出ればいいが、体を引いて出す、それはだめだ。重心が出れば足は出る。重心が出て、それから踏ん張ってから出る。

**塚脇** 踏ん張る時に、必ず前足の方に力がかかりますよね。今、言われたみたいに、じゃあこれから出ますよっていう時に、踏ん張る場合は、例えば、こういう具合に、こっちの足を出そうと思った時に、こっちの足を踏ん張って、そうすると大きな力が出ます。力を使わないで速く動けるのです。だから一瞬にして速く動けます。素早さは、やはり「なんば」の動きです（一連の動作を実演）。

**水島** ありがとうございます。今、塚脇さんが足を一歩出す時に、くにゃっと、潰れましたね。これが、全日本スキー連盟の理論のオーソリティー、市野先生が「うち足を消す」と言う表現に繋がってくるんじゃないかなと思うんです。

はいありがとうございます。もう一つ「ゆる」っていうような表現のことについて高橋さんはどのように考えていますか

**高橋** 「ゆる？」良く分かりません。

**水島** 指導法についてお話を伺っていきますけれども、指導法の中にはいくつかのものが有ります「初めてスキーを体験する人」を教える場合、それから、「スキーが大

変上手な人を教える場合」があります。我々の場合には、スキーを初めて体験する人、若しくは初中級者を教えることになるんですけども。実際にスクールで教えておられます澤田さんは、うまい人ばかり教えておられるのでこれはだめですね。高橋さんに伺いたいんですけどどうでしょうか。

**高橋** 私、昨年から、田沢湖スキー学校という所でスキー教師の活動を始め、1年間やってみて感じたことですが、「**有る程度スキーが滑れる方、スキーが分かる方には**」それが雪の上に立った時に出来る出来ないは別として、先ず、先に理論を頭で理解して頂いてから雪上に上がって、きちんと段階を追って練習をして体で覚えていくっていうのが楽だと思います。逆に、「**初めてスキーをする人**」、例えば子供、スキーで止まることも出来ないし、また転んで立つことも出来ない。でも、ふとした瞬間に、なんか知らないけど曲がっちゃったよっていうことがあります。それが、理論でどうすれば曲がるのかっていうことが分かかっていなくても、結果的に、曲がったことが大事で、それを、ないがしろにしないで、その感覚を基に体感的に覚えさせていくことが大事だと感じます。理論的に段階を追って勉強していくっていうのが、スキー教程で言う「**梯子方式**」という指導の仕方。感覚で先に曲がるの覚え、後から理論付けするのが「梯子方式」っていうふうに書いてあって、そういう指導の仕方があるのかなっていう感じがします。

**水島** この後、SAJの根幹に入っていくような質問をしたかったですけれ、時間がなくなりました。残念ながら、今回は、これで打ち切らざるを得ませんが、また、機会を作りこういう形式で、皆さんと一緒に数を重ねて参りたいと思います。

最後になりましたけれども、何か、質問有りますか？

**石川** 高橋さんは、今まで競技をやられていて、今度は技術選の上位入賞を目指して努力されていますが、両方やられていて感想をお聞きしたい。我々は今まで、「外向・外傾」でやってきて、今は「内向・内傾」と言われていますけれども、それで実際にスキーのタイムは速くなっていますか？

**高橋** その答えに直接合っているかどうか 微妙なんですけれども、競技って言うのは、ずらすことはタブーです。タイムロスに繋がるからです。ずらす動きというのは、自分からずらすのではなく、ずれるための体の使い方をすれば、ずれる。「内向・内傾」じゃなくて、「外向・外傾」「テールコントロール」の動きです。今まで、競技スキーを、兎に角、切って、下向けて、速く滑って、真っ直ぐ滑って、っていう感じでやってたんですが、ずらすスキーをきちんと理解できるようになって、去年、国体に出て、タイムが速くなるかどうかは別として、自分のスキーの技術は、上がったなと思います。

**澤田** 努力の固まりと言っていると思いますね。

**石川** ずらすと、タイムは決して速くなるとは思いませんが。毎年この狭間で迷っております。

**高橋** でも、スキーの技術が上がるっていうのは、確かと感じております。スキーをずらすということは直接競

## INSTRUCTOR No.21

技スキーでは使わないと思うんですけども、いろいろなスキーの技術の幅が出てくれば、やはり、競技スキーのタイムのアップにも繋がってくるだろうと思います。

**水島** はい、ありがとうございました。  
本日は長時間にわたり熱心な討論を頂き、どうもありがとうございました。

### 謝辞

大山副会長

今日の3人の講師の先生方、ありがとうございました。  
コーディネーターの力もあると思うのですが、このいろいろな課題を、うまく最後まで解決出来るのかなと、内心、心配しておりましたけれども、私自身は120%満足しております。恐らく、会場の皆様方もそうだと思います。どうもありがとうございました。

## パネルディスカッション レジュメ

### メインテーマ

「極限の速さと華麗さを求めてー近代スキーに見る進化と合理性」

### サブテーマ

- I スキー界（競技者等）にかかわるトップニュース
- II アルペンスキーとは何か？「どのようなスポーツと捉えているのか？」
- III トップレベルのテクニックについて  
技術選に見るテクニック  
トリノではどんなテクニックが世界を制するか
- IV 指導法について  
ジュニアとシルバーの指導法について  
いわゆる中高年層のスキーヤーの対応は
- V その他

2005年9月3日（土）  
NEC玉川クラブにて収録  
神奈川県スキー指導員会

## <懇親会風景>





## S I J トピックス

## 日本スキー指導者協会の当面する問題点

- 1) 何処が問題か
- 2) どのように解決するか
- 3) 日本スキー指導者協会の抱えている課題はなにか  
なぜ課題とするか  
どのように取り組むのか
- 4) 日本スキー指導者協会の到達目標はあるか  
どのような姿か  
そこに至る道筋は

日本スキー指導者協会が発足して22年が経過しました。2002年（平成14年）11月20日に創立20周年記念式典・祝賀会が盛大に開催された事は記憶に新しいところであります。

設立に至るまでの経緯と理念については、会報「INSTRUCTOR」20th ANNIVERSARY No. 18で、設立当時の柴田会長のお言葉や先輩諸氏からの寄稿で詳しく述べられているので省略します。

しかしながら20年という区切りがついた今日、本会に当面する問題点・課題点が少なからず出てきていることは否めません。冒頭の第1点は創立当時から大きく議論されたと記録にもありますが、(財)全日本スキー連盟直轄の組織として発足され、冠に「全日本スキー連盟」という名称をいただいていることが上げられます。雪あり県では北海道を除いた大部分の県では、指導員会は単位県（都、道、府）スキー連盟の教育部などに属して、独自で活動されたり、教育部の一環として活動されているのが実情のようです。雪なし県の代表として南関東地区の東京都スキー指導員会、千葉県スキー指導員会、神奈川県スキー指導員会などが独自のポリシーで指導員会活動をされており、雪なし県でも埼玉県スキー指導員会は県連の教育部の一環にありながら近年指導員会独自の活動を試みられております。東北地区においてもこのような傾向が見られます。

日本スキー指導者協会と言うからには全国組織です。東京が日本の中心かどうかはさておき、創立当時から中央事務局として東京に事務局を構えております。設立当時の横の繋がりを至上としていた時代から、事業展開をするようになった近年においては、その事業の性格が一部地域に限定されて来るようになり、全国展開が崩れてきたように感じられます。また冠とした「全日本スキー連盟」の意味は、現在ではSAJとしては「関連団体」としての位置づけと私は理解しております。

従って所属県連における「スキー指導員会」の位置づけも解釈がいろいろで、前にも述べましたがある県では連盟内に所属し、またある県では連盟とは全く関連の無い位置づけにあり、連盟と指導員会が競争関係にあるように捉えられる場合も生じる恐れもあるということが懸念されます。このような問題を抱えているのが現状の指導員会と考えます。

この問題の解決方法はスキーヤーが減少方向にある現在、いかにして一人でも多くのスキーヤーをグレンデに立たせるかを標榜する時、同じパイの取り合いでは無く、既存のスキーヤーとは別のグループの開拓をしなけ

ればならない事は明白です。この目的意識を明確にした上で、関連団体が最善の知恵を出し合う時が来たと思います。

第2点の日本スキー指導者協会の抱えている課題はなにかと言うことです。

組織が20年も経つといろいろな軋みが生じます。先ず強制力がない日本スキー指導者協会では会費の未納が生じてきました。年間120万円の収入予算に対して、支出予算は会報発行でほとんどが消えてしまいます。近年会報発行の経費削減や事業収益及び寄付金収入で何とか運営しておりますが、これ以上の滞納については猶予の限界にきております。納めやすいシステム構築により全県完納に向けて、規約の一部改正などをしながら協力を仰ぎたいと、先の常任幹事会で決議して総会で可決されました。

また、頭の痛い問題を一点抱えております。さる6月14日に本会副会長（西日本スキー指導員会会長）吉田晃一郎殿より、西日本ブロックの日本スキー指導者協会から脱会の通知がありました。

この件の経緯を常任幹事会でつぶさに報告・検討し、総会でも皆様方に詳細を報告して全国組織の日本スキー指導者協会を発展させるようにとの強い要望がありました。

この件に対する取り組み方の一つとして、西日本ブロックと直接面談で話し合い、ある程度の猶予期間を持って解決に取り組む方針です。また事業展開も長野や大山で、持ち回りの常任幹事会も大阪で開催などの試みを考えております。

第3点は「日本スキー指導者協会の到達目標はあるか」と言うことです。

大変大きな命題ですが、これを念頭に置くことを避けては通れません。本会の目標を掲げこれに向けて邁進する事が、本会の発展につながるようになります。

では、それはどのような姿かと言うことです。その将来像については、国策でもある地域総合型拠点として法人格を持った組織展開が必要と考えます。会報「INSTRUCTOR」第20号に名誉会長菅 秀文先生が寄稿されていますが、コミュニティーを社会的に持つためにもNPOなど法人格を持つ団体に立ちあげる事になるかと思えます。時期尚早との意見もありますが、皆様方のご意見を伺いながら良い改革に向けて努力していきたいと望んでおります。

幹事長 水島 秀夫

# 東京都スキー指導員会 機関誌 70号発刊を記念して 佐藤久哉デモと中澤美樹デモへのインタビュー

東京都スキー指導員会広報部

男子21名、女子7名というS. A. Jのナショナルデモンストレータに1組の夫婦がいます。そのお二人は、佐藤久哉デモ（17年度全日本スキー技術選手権大会優勝者）と中澤美樹デモです。東京都スキー指導員会では、機関誌の70号発刊を記念して、そのお二人のインタビューを企画しました。詳しい内容は機関誌またはホームページをご覧ください。ここではインタビューの一部を簡単に紹介することにします。

・スキーを履いたのは、二人とも熱心なお父さんの影響で3歳くらいから。中澤デモのお父さんは、東京生れなのですが、スキーが大好きで、スキー場に婿に来られたようです。

・佐藤デモは中学1年のときにナショナルチーム入り。オリンピック選手とのトレーニングはスキーをやめたくなるくらい厳しかったそうです。

中澤デモは、中学1年で県の指定選手。やはり高校生や、大学生の人たちについていけなくて苦しかったとのこと。なお、お二人は、同学年この時期に出会っているようですが、「まさか結婚するとは思わなかったけどね」と笑っていました。

・レースの世界から基礎スキーの入ったのは、中澤デモが先。大学の時に体を壊してしまい引退する予定で家に帰ったが、家はスキー場の中。楽しそうに滑っているスキーヤーを見て、もう一度滑る決意。佐藤デモは、全日本選手権で優勝したのに長野オリンピックの選考メンバーに選ばれなかったことがきっかけ。二人ともスキー指導の道があることを周囲の人に勧められてデモを目指す。

・佐藤デモが8年越しの挑戦で今年優勝した理由は、「単純に滑り自体も変えたし、トレーニングの量も増やしましたし、トレーニングの方法も変えてきた」とのこと。詳しい内容はここでは省略します。

その他、「シーズン中は、どのように過ごされていますか」「これからどのようなスキーをしたいと思いますか」「スキーの活性化についてお聞かせください」といった質問にも非常に丁寧に回答されていました。



東京都スキー指導員会公式ホームページ  
<http://www.ski-instructors-tokyo.jp/>

## S. A. J. 2005-2006 教育本部 スケジュール 抜粋

スキー大学	第1会場 :朝里川 第2会場 :サンアルピナ鹿島槍	06.01.07(土) ~ 10(火) 06.01.13(金) ~ 16(月)
学校スキー指導者	講習会 :飛騨高山	06.02.09(木) ~ 12(日)
指導者検定会	1) 朝里川 2) 網張 3) 野沢	06.02.24(金) ~ 26(日)
A級公認検定員検定会	4) 九頭竜 5) 大山	06.02.24(金) ~ 25(土)
第43回全日本スキー 技術選手権大会	苗場	06.03.15(水) ~ 20(月)
第7回カービング スキー選手権大会	尾瀬岩鞍	06.04.08(土) ~ 09(日)

## 【北海道】 北海道スキー指導者協会に団体名が変わりました

謹啓 平素は北海道スキー指導者団体に対しご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。さて、北海道ではスキー指導者の指向並びに将来動向を見極めながら関係の会議を積み重ねた結果下記のように改名致しましたので報告いたします。 謹白

記

1. 北海道スキー指導者協会といたします。
2. 理事長の変更をしました今後の北海道の窓口は新理事長になります。

新理事長 藤島勝雄 053-0855 苫小牧市見山町4丁目11-3

TEL,FAX 0144-72-4060

## 今様スキーの話題(三話)

前理事長 福地 白 (アキラ)

## 第一話. 48歳の挑戦者

スキーゲレンデにて、トレーニングに取り組んでいるスキーヤーに会った。「上手ですね・・・」と声を掛ける。「テクニカルを受検する予定です」と言う。

「初めての受検ですか・・・」

「実は17回受けているのですが、いまだ合格出来なくて、今年が18回目です」

一瞬、顔を見る。只事でない・・・

年齢を聞いてみる・・・

「48歳です」 年齢的にはかなり厳しい。

私も指導と言う点では、シニアですからベストなアドバイスが出来るかどうか自信が無いが、まずは、一回滑りを見せてくださいと本人の納得のいくターンを見せてもらう。ターン・ターン丁寧にロングターンをバーンに刻みこんで来る。楽しむスキーとして、安定したスキーテクニックは高く評価出来る。

なぜ、テクニカルプライズテストに合格出来ないか！何処に欠点があるのか！カービングスキーのマテリアルの進化を理解しているのか話し合い、続いてトレーニングプログラムを提示してみる。本人が大切にしている、外スキー重視の技術は一つの財産として尊重し、内スキーおよび両スキーの調和のとれた技術にトレーニング方針を切り替える。スキー板の基本的な使い方として、性能は常に連続させ又クロスオーバーのゾーンを広く(スペース・時間)自在に使いこなす。

現在使用しているスキー板のRadius(ラディウス)を理解しているか！たわみ効果を何処まで使っているか！ねじれ強度はターンの中でどう活かされているか！ターンメカニズムの理解と雪上パーツ練習を積み重ねる。

具体的に、検定に使われる斜面において、受検種目別に滑らせ、合格点の出ているターン数を伝え、身体でレベル(合格)を自覚させ、合格評価のターン数を増やして行く。受検本番では、検定員の位置を確認し、種目別のスキーのシェパードを評価する側の視点も意識しながら取り組む。又、受験日トライアルデモのスキーはテクニクを見るのではなく、板の動きに注目し、検定バーンをチェックし、自分の技術を「はめ込む・・・」等のアドバイスも含まれる。かくして、48歳の挑戦者は18回目にして合格の栄冠を得る事が出来た。

現在チャレンジャーは次なる目標クラウンプライズを目指している。

コーチとしての秘策は有る・・・

## 第二話. パウダースキーの楽しみ

パウダースキーの楽しみを知ると、降雪天気予報が気になってくる。今日は前夜から降り続いている雪も、玄関先は積雪50cmを越え、近くのスキー場においては約70cmのパウダーゾーンと化した。

その後晴れ間を見せたスキーゲレンデに出る。年に数回の深雪スキーを楽しむ貴重なチャンスである。スキー板はファット系「クナイスル」を装着する。スリーサイズは幅広のグラマーで浮揚力抜群である。圧雪車も入れない急斜面のゲレンデ上部に立つと、対斜面のはるか下の方に赤いウェアのスキーヤーが座っている。

「あんなところに見物人が居る・・・」

積雪70cmのゲレンデでは雪が膝上くらいになる。平地のスキー移動も困難になる。スキー滑走は斜度が大きいほど滑りやすい。落ちる雪と並走して滑るイメージである。滑走を始めると雪は膝から腹部を流れて舞い上がり、ベルト状に流れ上る雪はゴーグル着用の顔を被り視界0mの白銀の世界が出現する。ミニモーターFAN付きゴーグルも役に立たない。左右の膝に上下差を付けると、雪の流れは顔面を直撃しないで、左右に流れを変え、「剣道」の相手の剣先を右・左にかわすように、雪の流れを躲し背後にたなびかせながら滑る事が出来る。

大自然の中で思う存分浮揚感を味わう至福の一時を過ごす事となる。スキー板のたわみとクロスオーバーのコンビネーションを取り入れると更に浮揚感を増大させる。スキーもここまで来るとスポーツの領域を越えて天国である。

さて、数回滑り降りても、赤いウェアのスキーヤーは動かない。何回かの滑走後その女性スキーヤーに声を掛けてみた。「どうしましたか・・・」

「転んでスキーが片方見えなくなった。探してください！」レンタルスキーで楽しんでいたスキーヤーが転倒し、スキーを紛失したとの事である。早速、パトロールに連絡し、共にスキー板の搜索を続け、間もなく発見出来た。

## 第三話. 初めてのスキー経験

地域の青少年育成委員の方からお話がある。

「スキーがまったく出来ない子供がたくさん居ますが、スキー指導をお願いできますか」この事は、学校におけるスキー体育授業にも支障が出ているという。

「スキー指導者は、まったく未経験者の子供から教えます・・・」と伝える。スキー王国といわれた北海道においてさえスキー経験の無い子供達が始めている。

かくして次の図式が出来上がった。まず、ミニスキーゲレンデとして小学校の校庭に高さ2~3mの末広りの雪山を作る。スター地点はフラットで安定した部分を設ける。もちろん、重機を使い多人数が使えるコースを作る。いって見れば雪の遊び台で、ビニールを身体の下に敷いて滑る雪遊びやプラスチック櫓遊び、更にチューブスライダーもできる。スキーは先輩からのお下がりを提供してもらい経済的な負担を抑える。父母の手伝いを得て、スキー指導者の見守る中、僅か数mの滑走を楽しんでもらう。転倒による怪我を防ぐため、ビンディングとブーツ周りの事前点検をする。衣服、手袋などの防寒にも気を配る。父母・育成委員を総動員しながら、人海戦術で障害防止に努める。もちろん、準備運動は入念にゲーム感覚を取り入れながら楽しくすすめる。楽しさの余韻はどのシーンでも大切にされる。

初めて自力で滑走した、新鮮で驚異な体験を参加者の総ての子供に感じてもらうように配慮される。緊張感のある、そして初めてのスキー滑走の後の子供の笑顔。

「スキーって楽しいね・・・」のひと言にスキー指導者は満足する。

やがて、雪国のスノースポーツに興味を持ち、生涯スポーツとして定着してくれるであろう事を夢見ながら、手弁当・ボランティアのスキー指導者はこんなところにも活躍している。



## 【青森県】青森県スキー指導員会

指導委員長 畑口 一保

早くも、初冠雪の便りが聞こえてくる季節となりました。  
本県では、今年度初めて理論研修会と実技研修会を分けて行うこととなりました。  
理論研修会を事前に行いより充実した、実りある実技研修会へと繋げるための試み  
です。平成18年度の指導委員会・事業計画は、以下の通りです。

1	17.11.19(土)～20(日)	県立梵珠少年自然の家	第1回指導員・準指導員受験者養成講習会
2	17.12.4(日)	県総合社会教育センター	スキー指導員・公認パトロール・スノーボード指導員研修会及び公認検定員クリニック(理論)
3	17.12.17(土)～18(日)	鱒ヶ沢スキー場	スキー学校教師研修会
4	17.12.18(日)	鱒ヶ沢スキー場	スキー指導員実技研修会事前研修会
5	17.12.24(土)～25(日)	鱒ヶ沢スキー場	スキー指導員・公認パトロール・スノーボード指導員研修会及び公認検定員クリニック(実技)
6	18.1.8(日)～9(日)	百沢スキー場	第2回指導員・準指導員受験者養成講習会
7	18.2.11(土)～12(日)	モヤヒルズ	第3回指導員・準指導員受験者養成講習会

## 【岩手県】岩手県スキー指導員会

会 長 吉田 勇夫

当スキー指導員会の運営と活動状況を紹介、併せて現在課題となっている事項や  
悩みについても触れてみました。

## &lt;当会の概要&gt;

発 足 当会の歴史は浅く、平成4年に発足している。  
構 成 市町村スキー協会やクラブなどの県連所属団体に登録する指導員  
登 録 者 平成18年度 指導員516名、準指導員548名 計1,064名  
役 員 名誉会長、会長(1)、副会長(1)、理事(13)、監事(2)  
経 費 理事は県内10ブロックからの選出者と会長推薦理事の3名  
実質一人千円の会費から成り立っている  
※会の設立趣旨や目的などに理解を得られない会員もあり、納入率の低迷が続いている。

## 会費納入の仕組み

年間会費一人3千円を県連に納入し、県連発行の「スキーマメ代」2千円を差し引いた残  
りが当会に入ってくる

※「スキーマメ」を不要とする会員や会費3千円を高額と感じる向きが少なくないと思われる。  
なお、「会の運営に関心を示さない」「事業企画に不満がある」などの潜在的要素はないと言  
い切れないので、われわれ事務局は反省しながらも工夫をこらした事業運営を心掛けなけれ  
ばならないと感じている。

## &lt;会の目的と事業&gt;

当会の事業は、指導員規約の目的「本会は、正しいスキー  
の普及と指導員の連携と親睦をはかり、併せて資質の向上  
を図ることを目的とする」を達成するために行われている  
1(財)岩手県スキー連盟への協力  
2指導員の養成に関すること  
3会員の交流に関すること  
4スキーに関する調査・研究  
5その他、本会の目的達成に必要な事業を行うこと

## &lt;実施事業の概況&gt;

上記の1から5に掲げた事業項目に関わる実施状況

## ○全日本スキー技術選手権大会出場選手団補助

(平成17年度実績45万円)

大会出場に関わる総経費への一部補助であり、県連出費  
とは別に行っているものであるが、会費の納入減少から  
年々補助額が下がっている。

課題：補助の考え方として、使い方を問わない一括交付  
とするか目的条件つき交付とするか意見が分かれるところ  
である。

## ○指導員養成事業(平成17年度実績8万円)

以前は、指導員、準指導員合計者を対象に講習会を開催し  
ていたが、現在は県連との共催により、スキーアンバーサ  
リー事業の中で行う内容を共催する形で実施した。

・全日本技術選手権大会報告会

・C級検定員検定会に関する養成事業

課題：事業が負担金交付化しているが、今後参加者の声  
を聞くなどして検証することも大事だろう。

## ○親睦交流ゴルフコンペ(平成17年度実績5万円)

毎年実施し参加者には喜ばれている。ただし、参加人数は

それほど多くなく、参加者の固定化が進んでいる。  
課題：県内ブロックによる会場の持ち回り実施やゴルフ  
以外の交流事業について実施可能か検討してみたい。

## ○指導員会報の発行(平成17年度実績31.5万円)

会員同士の情報交換、交流目的に発行しているもので、  
全会員に配布している。  
編集内容の主なものとして

- ・中央研修会の状況や全日本の動き、新しいテーマの解説。
- ・各所属団体の活動状況
- ・全日本技術選手権大会の様子と出場選手の声
- ・新会員(準指導員)の今後の活動抱負
- ・海外ツアーの旅日記
- ・指導員会事業の報告と決算報告など。

課題：目新しい掲載記事の募集と手軽に読まれて情報が  
提供できる内容に編集するのが大変。

ただし、事務局員に印刷会社経営者がいるので、編集と印  
刷は任せきりでもあるが。

## ○スキーマメの購入(平成17年度実績17.8万円890人分)

一人3千円の指導員会費の中から、一冊2千円のスキーマ  
メ(冊子)を購入した形を取っている。

## ○日本スキー指導者協会事業への参加等

・日本スキー指導者協会発行の会報を会員に配布する。  
・親睦交流ゴルフコンペ事業に本県から参加する

## ○各種会議の開催及び出席

当会の事務局会議、理事会、総会を開催するほか、全日本、  
東北ブロック等の各種会議に会長が出席し意見交換、情  
報交換する。

## 【秋田県】秋田県スキー連盟 指導員会

教育本部長 渡辺 福蔵

秋田県スキー連盟 指導員会としての活動は特に行っておりません。

教育本部としての取り組みとして、3年前から「全国スキーの日」に主なスキー場にて、  
無料講習会を開催しています。平成18年度も1月9日に開催予定しています。

## 【山形県】山形県スキー連盟 指導員会

指導員会担当 鈴木 勘重

## 近ごろ思うこと

近ごろ思い出したように、我々の仲間がグレンデに集まるようになりました。  
形にこだわらずに、面白く滑り降りてくる楽しさを思い出したかのように滑りまくっています。  
若い指導者たちは、貴重な時間をいろいろなスキーヤー達の指導に使い、余った時間を自分の練習に使いながら、仲間同士で滑っています。次回のスキーを楽しみにしている仲間が多くなったように思われます。

仕事をしながらのスキー、このことを我々指導者は理

解し、山で会えた時を考えながら、この忙しい世代のユーザー達とつき合いながら、スキーの普及発展に努め、老いも若きもグレンデに一人でも多く立たせるよう努めたいと思っています。

中高年の指導者の皆さんにはスキーの楽しさを、若者には明日への活力を目指して、指導者として積み重ねた経験を使いながら、少しでもユーザーが増えるように努めたいと思います。

## 【福島県】福島県スキー指導員会

会 長 安部 英夫

18年度 福島県スキー指導員会の運営について  
会員相互の親睦を高めて！

例年の事ではあるが総会は、12月に行われるスキー指導員研修会にあわせて開催されます。  
シーズン当初に行われるだけに、スキー研修会のテーマやポイントへの関心が高く、会員の志気も上がっており、今シーズンの健闘を称え合いながら、親睦・交流の場が一層盛り上がります。

## ◇親睦と資質向上を図る格好の舞台

指導員研修会の交流会は、指導員会の目的である、スキー・スノーボード指導員相互の親睦と資質の向上を図るには格好の舞台となっております。

新たに誕生した前年度合格の指導員・準指導員の紹介も行われ、それぞれこれからの抱負が述べられ、指導者としての決意を新たに、第一歩を踏み出す事になります。これまでの苦労話や、歴戦を述べ合って、相互信頼がより一層高まっております。

日本スキー指導者協会発行の「INSTRUCTOR」機関誌もこの研修会において配布され、当会の事業活動とこれらへの参加事業の紹介がなされております。

中でもS I J親睦ゴルフ大会で2年連続の優勝という快挙を成し遂げた実績は、当指導員会が全国への発信に大きな貢献をしております。本年度は都合によりあいにく参加出来ませんでしたが、次回の活躍に期待しております。

## ◇18年度の主な取り組みは

福島県「スキー指導員会会報」の作成により、年度内の事業報告をしており、①本年度の会員親睦の振興策としては、「ゴルフ大会」の開催、全日本スキー技術選手権大会における出場選手への激励を込めた応援ツアーも実施する事にしています。

②このほかに指導員・準指導員検定会への応援態勢、スキー・スノーボード検定会、選手権大会への派遣事業など、県スキー連盟が取り組んでいる各種事業に応じて応援活動、③そして日本スキー指導者協会の総会への参加をはじめ、各事業へ取り組んでおります。

④また福島県スキー連盟の機関誌である「シュプール」の発行事業への支援活動も大きな事業となっております。福島県スキー界の「バイブル」的な役割を担っており、県スキー連盟の基本方針やスキー競技の記録をはじめ、教育本部の事業などが網羅されており、今年で発刊31年目になります。

## ◇課題は尽きない

福島県では近年、スキー指導員を目指す受検者の減

少、スキー学校への受講生の減少への歯止めがかからない中で、圧倒的にスノーボーダーの増加に押されている、と言う状況で悩んでいるのが現状です。

よりスキー技術を高めたい、資格取得でより上を目指したいと言うよりは、小グループ化で楽しむ、アフタースキーを満喫したいと言った傾向にあるのは、当地に限った事では無いと思います。これからも一般スキーヤーの楽しみ方や興味の持ち方への研究、あるいは如何に関心を高めていくか、など課題は尽きないところです。

## ◇なんとと言っても「ヒーローの誕生」

このような状況を踏まえて、スキーヤーの関心を高めるには、なんとと言っても「ヒーローの誕生」であり、「トリノオリンピック」での日本選手の活躍があってこそ、スキーに対する注目や、話題が主役になるし、そういうことによって、より多くの人々へ喜びと感動を与えてくれるものと期待しています。

当指導員会が、全日本スキー技術選手権大会への応援ツアーを企画したのもその一つです。毎年選手団を派遣しておりますが、決勝戦までまだ勝ち上がっていないので、是非実現したいとの願望から取り組みました。

## ◇やればできる

選手の皆さんには、代表選手として大変なプレッシャーになろうかと思いますが、孤軍奮闘ではなく、多くの仲間と一緒に戦う！応援があるんだ！と自らの勇気を奮い立たせて大きな目標に向かって欲しい。

“やればできる”という魔法の言葉を信じ、これらに打ち勝ってこそ大きな夢が実現できるものと確信しています。

シーズンを間近に控えて、毎年、暖冬傾向にあるとの情報を聞くたびに、今年は雪がどのくらい降ってくれるのかなあーあ？と気になります。適時、適量であることを願いながら、そしてトリノオリンピックでの日本選手団の大活躍を期待しながら、記憶に残るシーズンであって欲しいものです。

## 【宮城県】宮城県スキー指導員会報告

副会長 青沼 幸男

秋も深まり、雪の便りが聞こえてくるころとなりました。

本県では、役員改選の年に当たり、先日(10月22日)行われました宮城県スキー指導員会総会で新役員が承認されました。また、厳しい社会経済の中、新年度の行事や予算も承認されスタートをしたところです。本年度は、2006年1月下旬からオーストリアへ海外スキー研修を実施します。その他、各種講習会や研修会等への支援も充実させていきます。

## 平成18年度 主な事業計画

1	H17. 10. 22(土)	総 会	ホテル白萩	
2	H17. 10. 22(土)	交 流 会	ホテル白萩	
3	H 17. 12. 16(金)	講 演 会	未 定	伝達講習会時
4	H18. 1 下旬～2. 上旬	海外スキー研修	オーストリア方面	
5	H18. 3. 上旬	スキー・ホート準指合格者 入会受付	スキー：オニウハ ホート：オニウハ	
6	H18. 6 下旬	役 員 会	未 定	
7	H18. 7 下旬	県連大会大会協賛	未 定	
8	H18. 5 下旬	日 指 幹 事 会	未 定	
9	H18. 8 上旬	日 指 総 会	東 京	2名参加予定
10	H18. 9 中旬	役 員 会	未 定	

## 宮城県スキー指導員会海外研修日程予定

- 1 行 き 先 オーストリア・チロル地方
- 2 旅行日数 10日間
- 3 旅行予定日 2006年 1月28日(土)～2月6日(月)
- 4 旅 行 案

1/28(土) (1日目)	午前：成田発 (オーストリア航空を予定) ウィーン経由 インスブルックへ	◎到着後専用バス にてイングルへ
1/29(日) ～ 2/3(金) (2日目 ～7日目)	イングルスキー場にてスキー 滑走可能日 6日間 オプションとして アールベルクススキーエリアに移動可能 (サンアントン移動時間約30分、 インスブルック、ツールス、レッヒへも移動可能)	◎イングル 7泊 ◎ブンドススキー・ア カデミー表敬訪問可能
2/4(土) (8日目)	午前：イングル発 専用バスにてインスブルックへ 航空機にてウィーンへ 空港＝ホテル 専用バス移動	◎ウィーン 1泊
2/5(日) (9日目)	午前：ウィーン 空港＝ホテル 専用バス移動 午後：ウィーン発 (オーストリア航空を予定)	
2/6(月) (10日目)	午前：成田着	

## 【埼玉県】埼玉県スキー指導員会

会 長 小笠原 健一

埼玉県は、今年の6月臨時評議員会において役員改選が行われ、新体制のもと、9月に2005年度の埼玉県スキー新役員紹介

一指導員会定期評議委員会が開催され、指導員会が所管する5事業が承認されました。

<会 長> 小笠原健一 <副会長>大熊 忠男 近藤 秀雄 <監 事> 山本 均 荒松 博之  
 <幹事長> 田村 正義 <会計監事>山原 弥  
 <常任幹事>萩原 勉 川口 末治 福田 真人 大森 愛子 野口 馨 新井 仁  
 <幹 事> 風間 徳子 山本 英樹 石関 達 青木 俊憲 橋本 盛弘 中村 貞夫  
 町井 孝行 松村 治平 松川 大介 高野 正冲 伊藤 由仁 新井 時男  
 山崎 紳二 山田 一博 寺山 正 土屋 雄一 宿岩 朝宏 金井 久  
 池島富美夫 釜谷恵美子 小松原文則  
 <相談役> 山岡 恂

今年度は、教育本部の部員はもとより、一般スキーヤーも気軽に参加でき、また楽しめる行事の企画を心がけ新年度をスタートしました。

少子高齢化と言われて久しい昨今、まさに子供と高齢

者が気軽に参加できる環境作りをしていきます。雪無し県の我が埼玉の指導者約2,000名は、すぐそこまで来ている冬の季節に少しでもスキーヤーが増加することを願ってやみません。



## ◆ 2005-2006年 事業計画 (埼玉県スキー指導員会)

2006年度指導員会定期評議員会	9 / 2 5 (日)	
第17回ジュニアスキー教室	12/23(金)～25(日)	鹿沢スノーエリア
教育本部スキー競技会及び新人歓迎会	3 / 1 1 (土)	万座温泉スキー場
本部長杯懇親ゴルフコンペ	8 / 3 (木)	おおむらさき
懇親スポーツ大会	9 / 3 (日)	川越東洋大学

## ◆ S I J 親睦ゴルフ大会 千葉県・埼玉県が幹事を務めました。

第11回日本スキー指導者協会親睦ゴルフ大会が、千葉県・埼玉県が幹事となって埼玉県大里郡岡部町の岡部チサンカントリーで開催されました。

開催にあたり大勢の皆様にご協力を頂き、約100名の参加を得て盛大に開催されました。ご協力及び参加されました皆様にお礼申し上げます。

## ◆ 彩の国から

埼玉県ではこれから年末に向かって各地で秋・冬の祭りが行われます。主なものは、ところざわまつり(10月8日～9日)、川越祭り(10月第3土日)、入間市の人間万燈まつり(10月最終土日)、本庄まつり(11月2日～3日)、毛呂山町の出雲伊波比神社古式流鏑馬祭り(11月3日)、秩父夜祭り(12月2日～3日)、その他の神社の祭礼が多く行われます。

ところで、知ってますか? 全国1位のほうれん草、ブロッコリー、全国2位のねぎ、里芋、小松菜、かぶ、全国3位のきゅうり、全国4位の小麦、栗など、埼玉県は農産物の宝庫です。

秋の埼玉、みどり 花 農産物いっぱいの彩の国を満喫してみませんか。

## 【東京都】東京都スキー指導員会

副会長 荻野 恒夫

## 【東京都】東京都スキー指導員会報告

9月末、富士山に初冠雪があり、いよいよシーズン到来となります。東京都スキー指導員会では、6月17日総会を実施し、新役員を選出し、新年度事業計画(別掲行事計画)が決定いたしました。

特に、当会の初めての試みとして、「東京都スキー連盟主管の指導員研修会」について、昨年以來、当会阿部会長と山崎副会長を中心とした役員により、都連との度重なる打合せを行い、しばらくの間中断しておりました海外での研修会(L会場)を、委託事業として実施することになりました。

会場は、数ある候補地の中から、アメリカで最も人気のあるといわれるコロラド州バイルスキー場の責任者が来日したのを機会に交渉をした結果、種々の特典を得られることにより、同スキー場で4月に行うことを決定いたしました。

たしました。「海外の広大な自然の中で、現地の指導者やトップデモ等と共に楽しく滑り、交流を深めながら研修をする。」という目的を持って、都連加盟指導者はもとより会員家族・友人並びに他県連各位等、多数の参加を頂き実のある研修会にしたいと思っております。

また、12月に北海道朝里川スキー場で、北海道連の協力を得て行われる指導員研修会の機会を捉えて、夕食を兼ねた懇親会を「小樽青塚食堂」で行い、大いに親睦の和を深めたいと思っております。

他の行事におきましてもそれぞれの担当部において、マンネリ化に陥ることなく鋭意実行してまいります。

4月にキロロで実施されます「S I J カップフェスティバル」には、当会からも多数参加し、日指事業を大いに盛り上げたいと思っております。

## 役員改選 新役員紹介

〈顧問〉	〈審議委員〉	〈名誉会長〉	〈総務部〉	〈事業部〉	〈会員普及部〉
菅 秀文	松田 正久	田 英夫	部長 芳賀 寛	部長 山本 達夫	部長 津田 弘
田中 忠次	斎田 耕	〈会長〉	副部長 吉田 浩一	副部長 百々 弘毅	副部長 小川 英夫
荒井 哲夫	渡邊 宏	阿部 雄三	滝沢 誠	鈴木 宏直	児玉 兼信
湯山 武夫	神田 二男	〈副会長〉	幹事 茂内 稔	幹事 岸 隆史	幹事 田口 翼
林 権一	中村 純一	高橋長三郎	〈経理部〉	高橋孫一郎	金沢 泉
浦辻 直		山崎 一正	部長 金子 隆久	宮野 祐子	大宮 秀高
勝井 泰昭		荻野 恒夫	副部長 栗山 和弘	西塚 彰	佐藤 治夫
板谷 忠重		〈幹事長〉	〈広報部〉	友田 弥里	赤鹿 健二
〈常任顧問〉		渡辺 正晴	部長 下河邊元春		伊藤 嘉
高橋 守彦		〈副幹事長〉	副部長 伊藤 良徳	〈財務委員会〉	〈IT委員会〉
坂井 兆		和田 守義	幹事 大明美代子	委員長 馬場 和男	委員長 高橋 正視
〈参与〉		高橋 正視	長島 恵子		〈日本スキー指導者協会
市川 文郎		〈監事〉	相談役 野中 洋二		連絡委員会〉
井桁 四郎		関口 祐一			委員 高橋イキエ
稲垣 勝弘		太田 宏視			〈スーパーバイザー〉
森 直樹					増田 千春
					田 和夫

## 2005-2006年 行事計画 (東京都スキー指導員会)

東京都スキー指導員会会報第70・71号の発行	2005.11月2006.6月		SIT役員
スキー講座 苗場プリンススキー学校校長 豊野智広 元デモンストラターの「パラレルターンのワンランクアップ」等	2005.11.11(金)	薬業健保会館	増田千春講師 豊野智広講師 内藤義弘講師
S A J 研修会(朝里川)における夕食・懇親会 ホテルよりバス送迎	2005.12.16(金)	小樽 青塚食堂	SIT役員
指導員受検のための特別研究会 指導員検定会第3会場	2006.1.28(土)～ 2006.1.29(日)	野沢温泉スキー場 (宿泊ハウス・サンアントン)	S A J 教育本部専門委員
第25回フェスティバル(テクニクキャンプと技術選手権大会) リッチーベルガーとエレガント・スキーに挑戦しよう(PRATⅢ)	2006.3.11(土)～ 2006.3.12(日)	白馬五竜スキー場 (宿泊ホテル・シェーンヴァルト)	リッチーベルガー S A J 教育本部専門委員
クラウン、テクニカル・ブライズ検定会 都連より委託を受けて実施	2006.3.25(土)～ 2006.3.26(日)	志賀高原 熊の湯スキー場	S A J 公認指導員・検定員
指導員研修会(L)会場 都連より委託を受けて海外で実施	2006.4.5(木)～ 2006.4.10(月)	アメリカ、コロラド 州ベイルスキー場	アメリカ、トップ デモ等
準指導員・指導員合格者歓迎会	2006.6月中旬	薬業健保会館	SIT役員

東京都スキー指導員会ホームページ <http://www.ski-instructors-tokyo.jp/>

## 【神奈川県】 神奈川県スキー指導員会

幹事長 藤木 昇

## 新役員紹介 (2005-2007)

〈顧問〉	吉岡 幹雄	〈名誉会長〉	大澤 佑吉	〈総務部〉	村越 進	〈事業部〉	大鷹丸正人	〈会員サービス部〉	阿久津光代
鈴木 正儀	清水 明	〈会長〉	水島 秀夫		広田 雅也		坂詰 信夫		山本 学
片岡 春夫	野地 澄雄	〈副会長〉	大山 重彦		筑田 則和		清水 聡司		酒井 浩
清水 清則	井駒 利一		榎本 勝雄			〈財務部〉	石森 雄一		
古郡 敬一	古藤 公昭		宮園 節		川上 渉		中村 浩人		
須田 恒男	草薨 純也	〈幹事長〉	藤木 昇		酒井祐一郎	〈広報部〉		〈監査役〉	
本田 安男	〈参 与〉	〈副幹事長〉	岡本 秀明		川原 明彦		矢内 久光		青木 規生
和久井民雄	平賀 淳夫	〈副幹事長〉	水島三千夫				井東 昭		早川 博基
細井 健吾	島村 一男								
角田 高一	白井 精司								

## 新年度執行方針

神奈川県スキー指導員会は、会員がスキーヤーとしての資質の向上に寄与し、会員相互の親睦をはかり、楽しいスキーライフの活性化の一助となるよう努力して参りました。スキーに対するステータスの持ち主として、スキー人生や社会の豊かさに貢献できるような場を提供して参ります。

今年度の活動は去年に引続き、会員の情報交換も兼ねた総会懇親パーティーや温泉スキー行事、そして会員のスキルアップと活動の場を提供する行事を中心に計画致しました。初の試みとして、屋内雪上施設「スノーヴァ新横浜」と提携して楽しいスキーの普及と会員の交流の場として使用する企画も実施します。

## 2005-2006年 行事計画

詳しくはホームページ <http://sik.arts-k.com> をご覧下さい。

ティーチングセミナー初級	9月3日(土)	頼りになる指導者の育成と ティーチングスキル向上
	10月2日(土)	
ティーチングセミナー中級	10月22日(土) 12月10日(土)	
スキーの性能を生かすための コンディション	9月23日(土)	上飯田地区センター
(体力)トレーニング講習会	10月22日(土)	上飯田地区センター
	11月19日(土)	かまくらコース
1)ジュニア対象スキー講習会	10/29 11/12 12/17 各土曜日	スノーヴァ新横浜
2)Jr冬休みスキー体験教室	12/28～30	
3)一般を対象としたスキー講習会	12/3 .10.17.24 各土曜日	
第71回親睦ゴルフコンペ(秋季大会)	10月27日(木)	上野原CC
雪上トレーニング講習会	12月10日(土)～11日(日)	奥志賀高原スキー場
草津スキーと温泉を楽しむ会	1月15日(日)～18日(水)	草津国際スキー場
片品スキーと温泉ツアー	2月 5日(日)～ 7日(火)	おぐなスキー場
第6回車山チャレンジカップ	2月25日(土)	車山高原スキー場
エンジョイスキーin小海	3月 2日(木)～4日(土)	小海リエックススキーバレー
第25回オール神奈川スキーヤーズ大会	3月11日(土)～12日(日)	ハ海山麓スキー場
第22回指導員会フェスティバル	4月 1日(土)～2日(日)	車山高原スキー場
第72回親睦ゴルフコンペ(春季大会)	5月中旬	

## (財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

## 平成17年度 第2回常任幹事会 議事録

日 時 平成17年5月28日(土) 11:30~12:30

場 所 英一番館横浜 神奈川県民ホール 6階  
横浜市山下町3-1 TEL 045-662-5446

出席者 (順不同敬称略)

菅 秀文(名誉会長)、林 権一(顧問)、  
片岡 春夫(顧問)  
坂井 敏夫、近藤 晃、半沢 進、阿部 雄三、  
大澤 佑吉  
福地 白、吉田 勇夫、小笠原健一、長澤 光雄、  
山崎 一正、水島 秀夫、藤木 昇  
榎本 建司(監査)、渡辺 忍(監査)  
SAJ役員: 佐々木 峻、田 和夫

委 任

田 英夫、綱川 千夫、宮沢 一英、杉崎壽三男、  
広岡 和夫、古賀 澄夫、三上 一(監査)

欠 席

吉田晃一郎、矢船 保夫

事務局 高橋 イキエ、島村一男、水島 三千夫、大宮秀高

1. 開会の辞 近藤副会長
2. 会長挨拶 阿部副会長(田会長代行)  
田会長は国会会期中でもあり本日欠席となりましたが、ご出席役員にお詫びとお礼を申し上げるよう承って参りました。

本日の会場設置にあたられた神奈川の皆様にお礼申し上げます。

今年度の運営も役員各位のご努力によって当初の予定通り終了しました。本日は総会にむけて審議事項も多くよろしくお願いいたします。

また、SAJ理事佐々木先生のご臨席を頂いております。重ねてお礼申し上げます。本日は、未来にすすむヨコハマでの開催です十分な審議をしていただきたいと思います。

名誉会長あいさつ

組織として人格を持つと周囲から注目を集めることができる、そろそろNPOを立ち上げてはいかがか。

3. 議長選出 議長に坂井敏夫副会長を選出  
議長より議事の審議に入る前に本年度物故者となられた方のご冥福を祈り黙祷を行った。
4. 書記指名 議長より書記に水島事務局次長、大宮事務局員を指名
5. 議事録署名人選出 議事録署名人に吉田 勇夫、小笠原健一両常任幹事を選出
6. 議事運営の確認 坂井敏夫議長より12時30分を目処にする旨確認
7. 平成17年度概況報告  
別紙資料により報告説明: 水島幹事長

1) 一般報告

- (1) 事業別概況報告: 別紙添付資料に基づき説明

藤木中央事務局長

- ①第10回SIJ親睦ゴルフ大会
- ②第3回ランアップスキー教室
- ③第4回みんなで行こうスキー大学
- ④第6回SIJカップフェスティバルキコロ

2) SAJ報告

杉崎壽三男特別幹事(SAJ理事)に代わり佐々木俊理事より報告

- ・SAJ会長の辞意表明と後任選出の経緯、会長辞任に関連してスキー場の閉鎖が懸念され経済面でも厳しくなった。
- ・選手強化面で質の問題もあるが経済的な問題から選手

をホールドしておくことが困難になってきている。

- ・フリースタイルの大会に消費者金融をスポンサーにつけたことによる非難について、経済的に厳しいとはいえず今後十分吟味していく。
- ・SAJ80周年記念式典が6月26日(日)開催される。
- ・現在、トリノに向けて選手共々頑張っているので、ご支援をよろしくお願いいたします。
- ・杉崎理事から別紙2005/2006年教育本部事業予定表(案)及び事業参加者数の資料提供があった。

- 3) 会議、事業、本部会計収支報告

(1) 会議、事業別収支報告

藤木中央事務局長より別紙添付資料にて報告説明

(2) 平成17年度本部会計収支決算報告

藤木中央事務局長より別紙添付資料にて報告説明

以上について全員了承のもと承認

8. 提案事項

- 1) 平成18年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

大澤事業実行委員長より別紙添付資料にて説明提案

- 2) 平成18年度本会計予算(案)について

藤木中央事務局長より別紙添付資料にて説明提案

- 3) 総会について: 藤木中央事務局長

平成17年度総会の開催について説明提案

日 時 平成17年8月7日(日)

場 所 チサンホテル浜松町 東京都港区芝浦

- 4) 役員改選の件: 水島秀夫幹事長

改選期に当たりますので、各位におかれましては十分に吟味していただきご推薦をお願いいたします。

- 5) 西日本脱会届けの扱いについて: 阿部副会長

会報19号の巻頭言に端を発し西日本ブロックが脱会届け提出に至った経緯を阿部副会長より説明。討議した結果

- ・この場で西日本ブロックの除籍について決議をしない。
- ・更に人脈をとおして説得を続ける。
- ・西日本との接触は名誉会長、片岡顧問に委ねる。
- ・西日本ブロックの中でも温度差があるので県単位の加盟を認める。

<規約 参考>

- 第5条 本会の会員は、S. A. J. 公認スキー指導員並びに準指導員により構成する各都道府県の団体を会員とする。

- ・西日本だけでなく北海道の中でも脱会の意向をもっているところもあるのが実態だ。

以上の結果より、総会に於いては、西日本から脱会届けが提出されているとの報告にとどめ、名誉会長、片岡顧問には仲介の労をお願いすることとした。

- 6) その他: 水島秀夫幹事長

①スーパーシルバー研修会の開催について

研修単位を付与したスーパーシルバー研修会の企画と運営について起案しSAJに提案する件については幹事長に一任することとした。

対象: 70歳以上、講師: SIJ内で担当、など具体化する。

以上、1)項から5)項の提案事項について一同承認

9. 閉会の辞 半沢副会長

追記

第2回常任幹事会終了後同会場にて引き続き懇談会を実施し交流を深めた。

以上の議事録を証するため下記に署名する

平成17年 5月28日

議 長 坂井 敏夫 印

議事録署名人 吉田 勇夫 印

議事録署名人 小笠原健一 印

## (財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

## 平成18年度 第1回常任幹事会 議事録

日 時 平成17年8月7日(日) 11:00～12:30

場 所 チサンホテル浜松町 港区芝浦1-3-10

出 席 者 (名簿順敬称略)

菅 秀文 片岡 春夫  
 坂井 敏夫 近藤 晃 半沢 進  
 綱川 千夫 阿部 雄三 大澤 佑吉  
 杉崎壽三男 福地 白 吉田 勇夫  
 廣岡 和夫 小笠原健一 長澤 光雄  
 山崎 一正 水島 秀夫  
 渡辺 忍 榎本 建司

委 任

田 英夫 宮沢一英 古賀澄夫 三上一

事 務 局 藤木 昇 高橋イキエ 水島三千夫 島村 一男

## 2. 会長挨拶 阿部雄三副会長(田英夫会長挨拶代読)

8月2日幹事長と共に事務所の方にあがりまして、本日の総会議題また運営等につきましては全てご報告申し上げます。国会の都合で欠席されますことについて、皆さまにくれぐれもお詫びとお礼を申し上げるよう申しつかつてまいりました。

会長からメッセージがFAXで届いておりますので代読いたします。

「平成18年度日本スキー指導者協会総会にご出席の皆さんにご挨拶申し上げます。本日は国会日程等より欠席をしますことをお許し下さい。これからも皆さんと一緒に協会を盛り上げ、スキー界を活性化していくために頑張しましょう。」日本スキー指導者協会 会長 田 英夫

総会に向けて、前回の常任幹事会で決を得られなかった事業、収支決算についてご審議いただき、併せて発展的なご意見をいただきながら総会に付していきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 3. 議長選出 議長に近藤晃副会長を選出

## 4. 書記指名 議長より書記に水島三千夫事務局員、島村 一男事務局員を指名

## 5. 議事録署名人選出 議事録署名人に吉田勇夫、廣岡和夫 両常任幹事を選出

## 6. 議事運営の確認 近藤晃議長より12時30分を目処にする旨確認

## 7. 平成17年度概況報告

別紙資料により報告説明：水島秀夫幹事長

## (1) 一般報告(会議、事業別) 水島秀夫幹事長

## (1) 事業別概況報告：別紙添付資料に基づき説明

## ①H17年度第1回常任幹事会、総会、懇親会

## ②第10回SIJ親睦ゴルフ大会

## ③第3回ランカアップスキー教室

## ④第4回みんなで行こうスキー大学

## ⑤全日本マスターズ大会参戦ツアー

## ⑥第6回SIJカップフェスティバルキコロ

## 2) SAJ報告

杉崎壽三男特別幹事(SAJ教育本部理事)より報告

## (1) 期半ばにして堤義明会長から伊藤義郎会長に新しくバトンタッチされた。

## (2) (財)全日本スキー連盟 80周年記念式典が6/26赤坂プリンスに於いて盛大に開催された。

## (3) 来年度のオリンピックに向けて選手強化と役員構成等に迫られている、是非良い成績を残したい。

## (4) 全日本スキー指導者協会に直接関係する教育本部の事項について

## ① 指導員検定制度が改定されて3年目を迎える、単位制にしたのは受検し易くしたもので3回受ければ受かるというものではないことを強調。

## ② スキー大学は大変好評で、来年度は北海道と長野県で

開催、デモについても大勢の方に応援を願っている。

## ③ シャープ冠の技術選は観衆が多く関心の高い大会になっている。来期は会場を八方から苗場に移して行う。

## ④ 今年度は国際会議年で、IVSS、IVSI等がドイツ、オーストリーで行われた。日本から大勢の役員、視察団が参加した。

## ⑤ 次年度に向けて主な行事計画

## ・指導員検定会5会場が既に決まった。A級検定員検定会も同じ会場で行う。

## ・スキー大学北海道と長野県で行う予定を組んでいる。

## ・11月に行われていた中央研修会を雪のある4月に変えた。大いに滑り、シーズン中の反省をしたりして次年度につなげる計画を練ることとした。

## 3) 会議、事業、本部会計収支報告

## (1) 会議、事業別収支報告

藤木昇中央事務局長より別紙添付資料にて報告説明

## (2) 平成17年度収支決算報告、本会計決算報告

藤木昇中央事務局長より別紙添付資料にて報告説明

## 4) 監査報告

渡辺忍監査より別紙添付資料にて報告説明

## 8. 提案事項

## 1) 平成18年度事業計画(案)及び収支予算(案)

：大澤佑吉事業担当副会長

別紙添付資料にて説明提案

## 2) 平成18年度本会計予算(案)

：水島秀夫幹事長

別紙添付資料にて説明提案

## 3) 西日本ブロック退会について

：阿部雄三総務担当副会長

6月14日吉田晃一郎氏の文書で西日本ブロックより脱会の意向が伝えられた。阿部副会長よりその後の経緯が報告された。今後の取り組みについては、退会についての決定はしないで、皆さんともども全国の組織としてことを成したい。ということを常任幹事会での決議とし、西日本ブロックには引き続き働きかけていくこととした。

補足／菅名誉顧問

6月26日SAJ80周年記念式典に、私と片岡顧問とで出席して西日本ブロックの会長吉田晃一郎氏と会いました。その後、懇親会の中で九州、四国、山陰、他7名の方に個々に会いました。その結果、いろいろな問題や要望が見えてまいりました。(1)我々は県連にも登録料を払っている。SIJにも払っているのにメリットがない。これについては、初代会長の柴田さんがメリットを追求する会ではないという理念を出されました。私もその通りだと思っておりますが、メリットがないと何もしないという人が多くなってきた。そこで、例えば、SIJカップ、これも志賀でも出来る白馬でも出来る、会場をローテーションしてはどうか。(2)規約、第2章目的というものをはっきり把握、認識して欲しい。第2章とは親睦と横の連携です、そういうことが謳ってあります。(3)推挙委員会を充実しより民主的な形に。また、雑則ではなく付則とするなど用語も見直す。(4)ゴルフについては事業とは認めがたい。西日本の指導員でゴルフをしている人はあまりいない。85%の人は関心がない。それを事業にするのはいかがなものか。(5)ブロックについて、規約では、第5条で県が団体となっている。もう一度、第5条を見直してよりやりやすいような、みんなが参画しやすいような事業形態に。

更に、私からは執行部に第5条を見直して、加盟団体はブロックではない、県であるということを通達して欲しいということをお願いします。この点については執行部に検討をお願いします。

私の感触では、必ずしも西日本ブロックが脱退という強い意志とは思われません。もう少し説得してはどうか、こういうふうと思っています。



## 4) 会費未納ブロックについて

執行部から、長期滞納分について見切りをつけ納付し易くする案が提起され、議論を尽くした結果、引き続きその状況に応じた請求を続けていくことにした。甲信越、東海北陸この2件につきましては、未だにその目処が立っていない。これについては、前期より、各県毎に負担金を割った金額を提示し、それぞれご了解をいただき、すぐさま取り組んでいただきました。例えば、長野県、福井県、この2県からは納付がございました。会費未納の件につきましては、今後とも執行部として極力努力してまいります。

## 5) 役員改選について : 水島秀夫幹事長

規約第11条、第26条 細則により推挙委員会を別室にて開催

## ①推挙委員会の委員と推挙について

水島幹事長より推挙委員会の委員紹介。

推挙委員：福地 白（北海道）、吉田 勇夫（東北）

小笠原健一（北関東）阿部 雄三（総務担当副会長）、水島 秀夫（南関東）、以上5名

## ②会長、監査の推挙と認否

水島秀夫推挙委員より次の通り会長、監査を推挙する旨報告がありこれを承認した。

会 長 田 英夫 監 査 三上 一（東北）

榎本 建司（北関東）丸山 恭一（群馬県）

## ③役員・名誉役員は別表の通り。

なお、各都道府県で総会の時期が異なるため未選任のところがあるが、第14条2項「役員はその任期満了後でも、後任者が選任されるまでは、その職務を行う。」を適用。

以上、1) 項から5) 項の提案事項について一同承認。

## 6) その他 : 水島秀夫幹事長

(1) 北海道より、提案事項2件あり：福地白常任幹事

①日本スキー指導者協会の法人化に向けての検討について

②会報インストラクターの編集項目について

以上の提案について承認された。

(2) 会報21号の企画内容について

水島秀夫幹事長より、北海道からの提案を盛り込んだ企画内容を案内した。

## 9. 書記解任

## 10. 議長解任

## 11. 閉会の辞 綱川千夫副会長

以上の議事録を証するため下記に署名する

平成17年8月24日

議 長 近藤 晃 印

議事録署名人 吉田 勇夫 印

議事録署名人 廣岡 和夫 印

## (財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

## 平成18年度 総 会 議 事 録

日 時 平成17年8月7日(日)13:00~14:30

場 所 チサンホテル浜松町 東京都港区芝浦1-3-10

出席者 (名簿順敬称略)

菅 秀文 林 権一 片岡 春夫

坂井 敏夫 近藤 晃 半沢 進

綱川 千夫 阿部 雄三 大澤 佑吉

杉崎壽三男 福地 白 吉田 勇夫

廣岡 和夫 小笠原健一 長澤 光雄

山崎 一正 水島 秀夫 喜澤 一史

鈴木 勘重 大熊 忠男 荻野 恒夫

榎本 建司 渡辺 忍

委 任 田 英夫 宮沢 一英 古賀 澄夫 三上 一

飯田 誠一 丸山 恭一 林 茂美 古藤 公昭

小林 賢 岸田 栄吉

事務局 藤木 昇 高橋イキユ 水島三千夫 島村 一男

定足数報告 水島秀夫幹事長より、本会規約第20条により総会が成立していることを報告。

## 1. 開会の辞 坂井敏夫副会長

## 2. 会長挨拶 田英夫会長代行阿部雄三副会長

8月2日幹事長と共に事務所の方にあがりまして、本日の総会議題また運営等につきましては全てご報告申し上げております。国会の都合で欠席されますことについて、皆さまにくれぐれもお詫びとお礼を申し上げるよう申しつかってまいりました。

会長からメッセージがFAXで届いておりますので代読いたします。「平成18年度日本スキー指導者協会総会にご出席の皆さんにご挨拶申し上げます。本日は国会日程等より欠席をしますことをお許し下さい。これから皆さんと一緒に協会を盛り上げ、スキー界を活性化していくために頑張りましょう。」

日本スキー指導者協会 会長 田 英夫

今期の運営につきましては、会員皆さまのご協力は申し上げるまでもなく、ご協賛いただいております各社のご支援によりましてすべからく予定通り実施いたしました。ここに総会をもって平成17年度のご報告また、新年度の運営等につきましてご審議をいただくわけですが、来る新年度は私ども有資格者の組織としてなにをなすべきか、これは、すべからくスキー界活性化に向かって運営することは申し上げるまでもありません。

景気の状況なども、日に日に景気がよくなりつつあるというのが内閣府の近況でありますけど、果たしてその波がこのシーズンにいい状態で寄せてくるのか、そういうことを願いながら我々新年度に向かって運営に入ります。

今年は、丁度役員改選の年度でもありました。新役員については、後ほどご紹介申し上げ、一緒に運営に携わっていただくようになります。なにはともあれ、皆さんのご協力なくして、我々日本スキー指導者協会の運営は出来ません。忌憚のないご意見をいただき、皆さんの意に沿うべく運営に努力して参りたいと思っております。大変簡単ではありますが、田会長に代わりましてごあいさつをさせていただきます。

## 3. 議長選出 坂井敏夫副会長

## 4. 書記指名 水島三千夫、島村一男両事務局員を指名

## 5. 議事録署名人 廣岡和夫常任幹事、長澤光雄常任幹事

## 6. 議事運営の確認 坂井敏夫議長

## 7. 平成17年度概況報告

1) 一般報告(会議、事業別)：水島秀夫幹事長  
別刷総会資料にて報告。

2) S A J 報告  
：杉崎壽三男特別幹事(S A J 教育本部理事)  
報告内容は以下の通り。

(1) 期半ばにして堤会長から伊藤会長に新しくバトンタッチされた。

(2) (財)全日本スキー連盟80周年記念式典が6/26赤坂プリンスに於いて盛大に開催された。

(3) 来年度のオリンピックに向けて選手強化と役員構成等に追われている、是非良い成績を残したい。

(4) 全日本スキー指導者協会に直接関係する教育本部の事項について

①指導員検定制度が改定されて3年目を迎える、単位制にしたのは受検し易くしたもので3回受ければ受かるというものではないことを強調。

②スキー大学は大変好評で、来年度は北海道と長野県で開催、デモについても大勢の方に応援を願っている。

③シャープ冠の技術選は観衆が多く関心の高い大会になっている。来期は会場を八方から苗場に移して行う。

- ④今年度は国際会議年で、I V S S、I V S I等がドイツ、オーストリーで行われた。日本から大勢の役員、視察団が参加した。
- ⑤次年度に向けて主な行事計画
- ・指導員検定会5会場が既に決まった。A級検定員検定会も同じ会場で行う。
  - ・スキー大学北海道と長野県で行う予定を組んでいる。
  - ・11月に行われていた中央研修会を雪のある4月に変えた。大いに滑り、シーズン中の反省をしたりして次年度につなげる計画を練ることとした。
- 3) 会議、事業及び本部会計収支決算報告  
：藤木昇事務局長  
別刷総会資料にて報告。  
以上の報告事項について、特に質疑はなく承認された。
- 4) 監査報告：渡辺忍監査  
特に監査の立場から次の様な要望事項が付け加えられた。
- (1) 会費未納県への対応について、今後更に努力していただきたい。  
特に長期滞納県については、日本スキー指導者協会から乖離していかないよう、会費を納入しやすい状況を作り出していくということも含めて、鋭意検討していただきたい。
- (2) 日本スキー指導者協会に会員として入っていることのメリットというものを、今後の事業運営の中で再検討していただきたい。(例えば、開催会場を持ち回りにする等)  
以上の監査報告事項について承認。
8. 議 事
- 1) 平成18年度 事業計画(案)及び収支予算(案)  
：大澤佑吉副会長  
別刷総会資料にて報告。
- 2) 平成18年度 本部会計予算(案)  
：水島秀夫幹事長  
別刷総会資料にて報告。
- 3) 西日本ブロック退会について  
：阿部雄三副会長  
6月14日付 副会長吉田晃一郎氏の文書で西日本ブロックより脱会の意向が伝えられた。  
阿部副会長よりその後の経緯が報告された。今後の取り組みについては、この総会では退会についての決定はしないで、皆さんともども全国の組織としてことを成したい。という第1回常任幹事会での決議を報告し、西日本ブロックには引き続き働きかけていくこととした。  
補足／菅秀文名誉顧問  
6月26日S A J 80周年記念式典に、私と片岡春夫顧問とで出席して西日本ブロックの会長吉田晃一郎氏と会いました。その後、懇親会の中で九州、四国、山陰、他7名の方に個々に会いました。  
その結果、いろいろな問題や要望が見えてまいりましたので、この点については執行部に検討をお願いしました。  
また、私の感触では、それほど脱退という強いものではなく、退会ですからもう少し話し合いを持ってはどうか、こういうふうに思っております。
- 4) 会費未納ブロックについて：阿部雄三副会長  
監査報告で、引き続きその状況に応じた請求を続けていくようにという要望もございました。これについて

は、前期より、各県毎に負担金を割った金額を提示しまして、それぞれご了解をいただき、すぐさま取り組んでいただきました。例えば、長野県、福井県、この2県がでございます。未納の件につきましては、今後、執行部として極力努力してまいります。

- 5) 役員改選について：水島秀夫幹事長  
規約第11条、第26条 細則により、出席ブロックから推挙委員各1名を選出し開催した。  
推挙委員：福地 白(北海道)、吉田 勇夫(東北)、小笠原健一(北関東)阿部 雄三(総務担当副会長)、水島 秀夫(南関東) 以上5名

- ①会長、監査の推挙と否認  
水島秀夫推挙委員より次の通り会長、監査を推挙する旨報告がありこれを承認した。

会 長 田 英夫  
監 査 三上 一(東北) 榎本 建司(北関東)  
丸山 恭一(群馬県)

- ②役員・名誉役員は別表の通り。

なお、各都道府県で総会の時期が異なるため未選任のところがあるが、第14条2項「役員はその任期満了後でも、後任者が選任されるまでは、その職務を行う。」を適用。

以上について一括承認された。

- 6) その他
- (1) 北海道より、提案事項2件あり
- ①日本スキー指導者協会法人化に向けての検討について
- ②会報インストラクターの編集項目について  
以上の提案について承認された。
- (2) 会報21号の企画内容について  
水島秀夫幹事長より、北海道からの提案を盛り込んだ企画内容を案内した。

今期物故者のご冥福をお祈りし黙祷

<本会に多大の貢献をなされた>

栗林 薫 名誉顧問(平成17年1月9日没94歳)  
丹内 正一 顧問(平成17年3月16日没93歳)

<本会設立時に多大な貢献を頂いた>

柳澤須佐男氏(平成17年4月4日没93歳)

9. 書記解任

10. 議長解任

11. 閉会の辞 近藤晃副会長

以上の議事録を証するため下記に署名する。

平成17年8月24日

議 長 坂 井 敏 夫 印

議事録署名人 廣 岡 和 夫 印

議事録署名人 長 澤 光 雄 印

## 平成 17 年度 事業別概況報告

	開催年月日	事業内容	会場
1	H16年7月31日 参加数55名	H17年度第1回常任幹事会、総会、懇親会 役員 27名 他38名	チサンホテル浜松町
2	H16年10月3日 ～4日 参加数64名	第10回SIJ親睦ゴルフ大会 岩手県2、宮城県4、福島県12、栃木県3 埼玉県3、千葉県15、東京都14、神奈川県11	那須チサンCC 前夜祭りらんど湖 ロイヤルホテル
3	H16年12月11日 ～12日 参加数25名	第3回ランクアップスキー教室 (神奈川県 雪上トレーニングと共催) 神奈川県中心 25名	奥志賀高原スキー場 スポーツハム奥志賀
4	H17年1月7日 ～10日 参加数31名	第4回みんなで行こうスキー大学	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
5	H17年3月4日 ～6日 参加数22名	全日本マスターズ大会参戦ツアー	朝里川温泉スキー場 かんぼの宿 小樽朝里荘
6	H17年4月8日 ～10日 参加数163名	第6回S I J フェスティバルキロロ 大会参加者 105 東京都 39 北海道61 神奈川県26 千葉県 3	キロロスノーワールド スキー場 ホテル ピアノ

## 平成 17 年度 決算報告書

## 1. 収入の部

(▲予算比減)

科目	予算額	決算額	内訳金額	予算比増減	摘要
繰越金	855,060	855,060			前年度より
年会費	2,756,000	697,500	437,500 260,000	▲2,058,500	本年度分 過年度分
会議費	250,000	442,000		192,000	
事業費	3,490,000	2,932,675		▲557,325	
用品販売費	20,000	33,140		13,140	
広告料	20,000	0		▲20,000	
雑収入	500	50,004		49,504	
合計	7,391,560	5,010,379		▲2,381,181	

## 2. 支出の部

(▲予算比減)

科目	予算額	決算額	内訳金額	算比増減	摘要
会議費	480,000	623,299		143,299	
事業費	4,170,000	3,364,343		▲805,656	
用品加工費	50,000	73,710		23,710	
通信費	50,000	58,000		8,000	
事務費	70,000	75,303		5,303	
事務所借用料	50,000	50,000		0	
渉外費	90,000	102,832		12,832	慶弔(弔電、生花)
ホーム・ジ・費	100,000	60,210		▲39,790	
雑支出	50,000	0		▲50,000	
支出合計	5,110,000	4,407,698		▲702,302	
繰越金	2,281,560	602,681		▲1,678,879	
合計	7,391,560	5,010,379		▲2,381,181	

## 平成 18 年度 事業計画

	開催年月日	事業内容	会場
1	H17年9月19日(月) 募集 80名	第11回SIJ親睦ゴルフ大会 前夜祭18日(日)参加費 18,000円	岡部チサンCC (岡部コース)
2	H17年11月 上旬	会報21号の発行 発行部数30,000部	
3	H18年1月7日(土)～10日(火) 募集 40名	第5回みんなで行こうスキー大学	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
4	H18年4月14日(金)～16日(日) 募集 180名	第7回S I J フェスティバルキコロロ 33,000～36,000円(羽田発)	キコロロワールドスキー場 ホテル ピアノ

## 平成 18 年度 本会計予算

## 1. 収入の部

科目	予算額	前年予算額	増減	摘要
繰越金	602,681	855,060	-252,379	
年会費	3,286,000	2,756,000	530,000	
会議費	300,000	250,000	50,000	
事業費	1,950,000	3,490,000	-1,540,000	
用品販売費	40,000	20,000	20,000	
広告料	10,000	20,000	-10,000	
雑収入	5	500	-495	
合計	6,188,686	7,391,560	-1,202,874	

## 2. 支出の部

科目	予算額	前年予算額	増減	摘要
会議費	550,000	480,000	70,000	
事業費	2,598,000	4,170,000	-1,572,000	
用品加工費	40,000	50,000	-10,000	
通信費	50,000	50,000	0	
事務費	70,000	70,000	0	
事務所借用料	50,000	50,000	0	
渉外費	100,000	90,000	10,000	
ホーム・ジ・費	100,000	100,000	0	
雑支出	50,000	50,000	0	
支出合計	3,608,000	5,110,000	-1,502,000	
繰越金		2,281,560	299,126	
未収金会費予備費	1,886,000			
予備費	694,686			
合計	6,188,686	7,391,560	-1,202,874	

## 18年度行事スタート!

## 第11回日本スキー指導者協会 親睦ゴルフ大会

恒例の日本スキー指導者協会主催のゴルフ大会が、天空高く秋色が日々感じられる岡部チサンカントリークラブ岡部コースで2005年9月19日(月)開催された。

7県94名の選手が参加、午前8時56分OUT、INコースから同時にティオフ。快晴で絶好のゴルフ日和、各選手巧スコアをマークした。表彰式では参加選手全員が沢山の賞品を手に、健闘をたたえあい再会を誓い合った。関係各位の多大のご協力感謝いたします。



個人			グロス	HDCP	NET
優勝	浦辻 直	81	10.8	70.2	
2位	本間 尚	85	14.4	70.6	
3位	渡辺 忍	90	19.2	70.8	

ベストグロス賞		
男子	新津信行	73
女子	宮沢貞子	79

団体	上位3名 NET 計	
優勝	東京都	213.2
2位	千葉県	214.4
3位	埼玉県	222.4



## 事務局だより

平成18年度も半ばになってきました。いよいよシーズン突入となります。

S I J 事務局業務は総会決議事項の実行の為、水島幹事長の指示により事務局員と東京に近い南関東中心の阿部総務、大澤実行担当両副会長と長澤、山崎常任幹事を交え、事務局会議を適宜開催しながら執行方法の決定をしております。その他行事等執行のお手伝いということになります。

総務機能として各県役員または指導員会宛の通知や記事依頼、会費納入のお願い、会計処理、常任幹事会・総会の手配と記録作成、バッジ等の販売、スポンサー募集とお礼状の発送、慶弔に関する連絡と手配などを行っています。

広報の機能として会報の企画編集、寄稿依頼と手作り発行、執行行事のホームページへの掲載維持等となっています。更なる活動の活性化のためにホームページの活用は将来的に重要な要件です。

各役員の方々も仕事持ちが多く、各県の役員も兼ねていることから忙しさは相当なものです。

しかし、皆さんと会え、行事や会報によって全国の会員との連携と楽しみが広がって行く事を感じながら、そして楽しみながら進めております。

皆様からのお声を頂戴し、更に喜びの多いS I Jにして行きたくよろしくお願い申し上げます。

事務局員は各県の新人事により下記の担当となりました。任期の2年間よろしくお願い致します。

事務局長 藤木 昇(神奈川)、事務局次長 総務担当 高橋イキエ(東京)、広報担当 水島三千夫(神奈川)、

## 事務局メンバー紹介

S I J の事務局を支えているメンバーについて、誌面を割いていただく機会を得ましたのでご紹介いたします。

名前、所属、担当 ①スキーは何歳から？スキー場は？スキー歴は？②私のマテリアル変遷  
③スキー指導員を目指した動機は？師匠は？  
④S I J の仕事をするようになったのは？⑤事務局を担当してみて良かったこと、抱負など



名前 藤木 昇  
所属 神奈川県スキー指導員会  
主な担当 事務局長

- ① 20歳 狭山スキー場、小野川温泉スキー場 スキーを履いて46年  
② スキー：単板平エッジ～ヒッコリーバック(長谷川スキー200cm)～グラス(小賀坂200cm)～現在(ホルクル180cm)

靴：浅草橋で皮のシングル、～レタボア～ライケル～現在(サンマルコ)

縮具：カンダハー～ラグリーメン(マーカー)～セーフティ～現在(マーカー)

ストック：合竹、スチール、アルミ、グラス、カーボン～現在(LEKI)

- ③クラブで教えてもらったスキーは自分が教えていく番に回るのは当然と考えて師匠は、クラブの先輩、同僚。そして上部団体の主催する強化合宿の先生たち。

- ④クラブの先輩から勧められて県の指導員会に入り、総務、会計等地道な担当で組織の機能化を進めた。これも、多くのスキーヤーの友達になり、自分自身の幅を広げたいという思いから入った。

○副会長やM幹事長の薦めでSIJ幹事となり、その後事務局にはいりました。

- ⑤全国のスキーヤー、特に著名な方々と知りあえる機会が増えたこと。またその輪を全国に広げる為に努力し実行の手伝いをして皆さんに少しでも喜んで頂くこと。NPO等への発展は目標ですが、仕事を抱えながらでは無理と考えています。

SIJの中央組織として皆さまのお役に立つよう努力して参ります。よろしくお願い致します。



名前 高橋イキエ  
所属 東京都スキー指導員会  
担当 PC特別技術を除く一般

- ① 社会人になってから。  
親戚の者が東京駅近くの交通公社に勤務していた関係で蔵王、赤倉、志賀、野沢等、友人たちとスキー旅行を楽しんで以来現在に至る。

- ② 始めに与えられた板はヤマハ、その後ブルースター、次ぎヘッド。紐付き革靴。  
技能テストを目標にしてから小賀坂、アジア。指導員資格は小賀坂。紐付き革靴。

- 競技大会参加を目標にしてからヴァルクル、ブリザード、他、ケスレーでは東京都大会SAJマスターズ大会等、上位入賞した。SAJマスターズ大会がSAJ国体大会からマスターズ大会単独運営に改定されてから多分サロモン板だと思う。

- これは少し重いが安定感が好きで競技選手をやめてから現在もお気に入り。

- 板の内容は人まかせである。靴が現在風になってから、ノルデカ、サンマルコ、現在は少し軽なお気に入り。サロモンである。靴の種別、その他用具等、人、メーカー様まかせである。

- ③ 昭和42年、TBSスキークラブ設立、職域団体として東京都連盟に登録加盟。

- 新潟県湯沢駅近くにTBSスキー場があり一般、団体来場者向けのスキースクールを開校するためのクラブで常時50名位の講師を必要としていた。大学生、教師、上野車掌区車掌等、社会人資格者が講師であった。名のある客員講師の講習も頻繁であった。

- 当時、東京都デモ選出予選会開催会場でもあり、見事に滑るスキーヤーでにぎわっておりクラブ員の殆どが指導員あるいわ、デモを目指すことであった。クラブ入会は昭和43年。TBSスキークラブは会社の都合でその後、小田急スキークラブ、ファースト石打スキークラブと名称の変更があった。

- 恩師はその時々がそうであり申し訳ありませんが、スキー場でお世話になった井口真隆校長はお山の大将

## INSTRUCTOR No.21

で滑るゾー、勝手に滑ります。後を追うのが一苦労でした。

早朝は自主トレですが、ナイターでは校長のパワーを研究生に辛抱強く熱心に与えます。何か巧くなったように思った。こちらもお山の大將、北海道の箕輪文好先生 には一時のシーズン実りある受講をさせて頂きました。又、オフに茨城県までゴルフに参加して頂き組は別でしたが楽しい1日を過ごしました。

私は現在ゴルフしていません。

東京都スキー指導員会規約に基づき選出された。

SIJ事務局として長年在席しておりますが、スキー界の大先輩の先生と在京でお目にかかる機会も多く、移り替わるスキー界を見聞することができますことは、何よりの喜びであります。総務担当として役員皆様には会議、行事毎に突然のお連絡を申し上げますがお許し願います。今後共、ご指導ご支援を頂きますようお願いを申し上げます。

\*\*\*\*\*



名前 水島 三千夫  
所属 神奈川県スキー指導員会  
主な担当 広報関係(HP運用、会報作成)

10代前半 関・燕スキー場 スキーを履いてから約半世紀

スキー：单板平エッジ～ヒッコリーバック  
(イムラ210cm)～メタル合板(フィッシャー205cm)  
～現在(小賀坂160cm)

靴：アメ横で駐留軍放出の革靴、～パイソン(エアフォーム)～ラングetc～現在(サンマルコ)

締具：カンダハー～ラグリーメン～セーフティ(ルック、和リア他)～現在(マーカー)

ストック：トンキン竹、合竹、スチール、アルミ、

グラス、カーボン～現在(LEKI)

先輩にモデルぞと勧められその気になって

師匠は、深雪の名手といわれた植木毅氏(燕スキー場針村屋)

F顧問から「指導員会は楽しいゾ」と言われ、県指導員会に入会、M幹事長の薦めで事務局入り

探してみたけどなかなか見つからない、辞めたときはじめて分かるのかな?

皆さまのお役に立つよう努力しますのでよろしくお願ひします。

\*\*\*\*\*



名前 大宮 秀高  
所属 東京都スキー指導員会  
担当 局員

19歳 大学の体育の集中単位取得でスキーを選択した。スキー場は蔵王温泉スキー場です。スキー暦47年

スキー：イムラ オガサカ クナイスル(柯什スー)

カザマ オガサカ サロモン

靴：パイソン ラング サロモン

締具：ホープマーカー チロリヤ サロモン

ストック：合竹 スチール アルミ グラスファイバー カーボン

スキークラブを立ち上げてから日が浅かったので指導員を増やす使命があった。

東京都スキー指導員会規約に基づき選出された。

未だ五里霧中です。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

### 事務局会議

平成16年12月22日 神奈川県 川崎「松竹」

会報20号発行経費の精算

平成17年度行事の集客作業と方針について

会費納入状況

平成17年3月24日 神奈川県 川崎「松竹」

第6回SIJカップフェスティバルキロロの準備

平成17年5月13日 神奈川 横浜「県民センター」

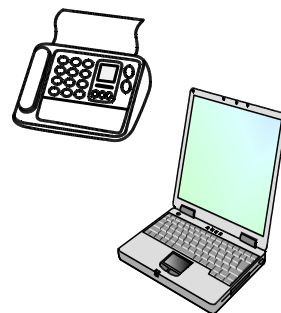
平成17年度第2回常任幹事会開催について準備進捗状況の確認

平成17年9月26日 神奈川 横浜「県民センター」

会報第21号編集企画会議

平成17年10月11日 神奈川 横浜「県民センター」

会報第21号最終編集会議



## INSTRUCTOR No.21

(財)全日本スキー連盟  
日本スキー指導者協会 役員名簿 2005.6～2007.5

☆は会長推薦、役員空白部分は各ブロック・県の総会時期との関係で届出待ち。

名誉会長	菅 秀文	東京都	幹 事	喜澤 一史	北海道
特別顧問	丸山 晃	長野県	〃	〃	青森県
顧問	近藤 恒也	北山形県	〃	〃	岩手県
〃	堀 英三	山形県	〃	〃	宮城県
〃	岸 武美	群馬県	〃	鈴木 勘重	秋田県
〃	目崎 孝純	東京都	〃	安部 英夫	山形県
〃	福岡 哲夫	東京都	〃	〃	福島県
〃	荒井 権一	東京都	〃	〃	茨城県
〃	林 春夫	東京都	〃	〃	栃木県
〃	片岡 堅	神奈川県	〃	〃	群馬県
〃	平林 晨	長野県	〃	大熊 忠男	埼玉県
〃	次井 利夫	新潟県	〃	林 茂美	千葉県
〃	中川 禅雄	滋賀県	〃	荻野 恒夫	東京都
〃	大館 忠五郎	鳥取県	〃	宮園 節賢	神奈川県
参 与	宮本 富彦	宮城県	〃	小林 栄吉	山梨県
〃	松谷 和夫	福島県	〃	〃	長野県
〃	廣岡 直	東京都	〃	〃	新潟県
〃	浦辻 直	東京都	〃	〃	富山県
〃	〃	〃	〃	〃	石川県
〃	〃	〃	〃	〃	福井県
会 長	田 英夫	東京都	〃	〃	静岡県
副会長	坂井 敏夫	北海道	〃	〃	愛知県
〃	毛利 修三	北海道	〃	〃	三重県
〃	半沢 進	北海道	〃	〃	岐阜県
〃	綱川 千夫	関東	〃	〃	滋賀県
〃	渡辺 忍	南関東	〃	〃	京都府
〃	阿部 雄三	南関東	〃	〃	大阪府
〃	大澤 佑吉	神奈川県	〃	〃	兵庫県
〃	宮沢 一英	新潟県	〃	〃	奈良県
〃	〃	東海	〃	〃	和歌山県
〃	〃	西日本	〃	〃	鳥取県
特別幹事	杉崎 壽三男	S A J 教育本部理事	〃	〃	島根県
常任幹事	福地 白	北海道	〃	〃	岡山県
〃	吉田 勇夫	北海道	〃	〃	広島県
〃	古賀 澄夫	北関東	〃	〃	山口県
〃	小笠原 健一	埼玉県	〃	〃	香川県
〃	長澤 光雄	千葉県	〃	〃	徳島県
〃	山崎 一正	東京都	〃	〃	愛媛県
〃	水島 秀夫	南関東	〃	〃	高知県
〃	広島 茂夫	新潟県	〃	〃	福岡県
〃	〃	西日本	〃	〃	佐賀県
〃	〃	和歌山	〃	〃	熊本県
監 査	三上 一	東北	〃	〃	大分県
〃	榎本 建司	東北	〃	〃	〃
〃	丸山 恭一	群馬	〃	〃	〃

## 中央事務局

局 長	藤木 昇	神奈川県
次 長	高橋イキ工	東京都
〃	水島三千夫	神奈川県
局 員	大宮 秀高	東京都

## 2005年度 関係団体一覧 (2004年12月版)

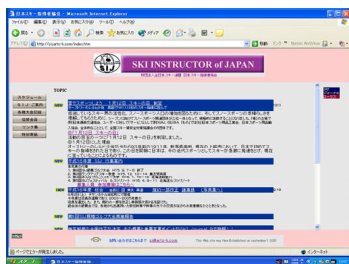
北海道	0144-72-4060	藤島勝雄様方	三重県	0593-94-6981	三重県スキー連盟内
青森県	0172-48-3490	(財)青森県スキー連盟内	滋賀県	077-578-0945	滋賀県スキー連盟内
岩手県	019-654-7605	(財)岩手県スキー連盟内	京都府	075-692-3487	京都府スキー連盟内
宮城県	022-375-9524	宮城県スキー連盟内	大阪府	06-6975-2064	大阪府スキー連盟内
秋田県	018-832-0563	秋田県スキー連盟内	兵庫県	078-802-0558	兵庫県スキー連盟内
山形県	023-647-5020	山形県スキー連盟内	奈良県	0743-67-0760	奈良県スキー連盟内
福島県	0242-62-4504	福島県スキー連盟内	和歌山県	0736-73-3723	和歌山県スキー連盟内
茨城県	029-276-1098	茨城県スキー連盟内	鳥取県	0859-52-2290	鳥取県スキー連盟内
栃木県	028-622-3671	栃木県スキー連盟内	島根県	090-8998-1110	島根県スキー連盟内
群馬県	027-231-1966	群馬県スキー連盟内	岡山県	086-801-9090	岡山県スキー連盟内
埼玉県	048-823-3171	埼玉県スキー連盟内	広島県	082-293-3230	広島県スキー連盟内
千葉県	047-426-0040	千葉県スキー連盟内	山口県	0834-22-6810	山口県スキー連盟内
東京都	03-3262-2491	(財)東京都スキー連盟内	徳島県	0883-82-6162	徳島県スキー連盟内
神奈川県	045-311-9807	(財)神奈川県スキー連盟内	香川県	087-841-3818	香川県スキー連盟内
新潟県	0258-82-1680	(財)新潟県スキー連盟内	愛媛県	0898-24-0676	愛媛県スキー指導員会内
富山県	076-442-3110	富山県スキー連盟内	高知県	088-823-5331	高知県スキー連盟内
石川県	07619-3-3500	石川県スキー連盟内	福岡県	092-477-7732	福岡県スキー連盟内
福井県	0779-66-3411	福井県スキー連盟内	佐賀県	0952-62-0904	佐賀県スキー連盟内
山梨県	0551-48-3166	山梨県スキー指導員会内	長崎県	0956-40-5454	長崎県スキー連盟内
長野県	026-264-5888	(財)長野県スキー連盟内	熊本県	096-382-6111	熊本県スキー連盟内
岐阜県	0577-34-3133	岐阜県スキー連盟内	大分県	090-554-3215	大分県スキー連盟内
静岡県	054-252-3718	静岡県スキー連盟内	宮崎県	0982-52-1071	宮崎県スキー連盟内
愛知県	052-761-6277	愛知県スキー連盟内	鹿児島県	0995-74-1525	鹿児島県スキー連盟内
			沖縄県	098-850-9273	沖縄県スキー連盟内

## 会費納入のお願い

日本スキー指導者協会の運営は、全国各県の指導員会組織(SAJの各県連組織を含む)からの会費が基本になっております。皆様から頂く総額120万円の年会費は全国の指導員への情報提供とコミュニケーションの場であるこの会報の発行とホームページの維持に殆んどが費やされています。

まだ滞納気味の県もあり当会の運営は財政的に非常に苦しい状況です。このような事情から誠に勝手ながら、本年度の会報発行に合わせ、会費未納の各県の指導員会事務所に請求書をお届けさせていただきますので、何とぞ年内納入にご協力頂きたく節にお願い申し上げます。

尚、既にご納付されました各位には心よりお礼申し上げます。 事務局長 藤木 昇



## 《編集後記》

皆さまのお陰をもちまして、今年も無事お届けすることが出来ました。誌面を拝借して厚くお礼申し上げます。

◇先日、S.I.Kのコンディショニング(体力)トレーニングで”ストック”を使ったウォーキングが紹介された。早速、犬の散歩の時に取り入れ効果を実感しました。北欧ではストックを使ったウォーキングが普及しているとのこと。一度、トライしてみたいかたです。

◇役員改選を終え新体制になりました。退任された役員の方々には大変お世話になりました。また、新任の役員の方々が、よろしくお願いします。(M.M)

\*\* 編集委員 \*\*

水島 秀夫 福地 白 藤木 昇 高橋イキエ 大宮 秀高 水島三千夫

S.I.J.のホームページ <http://sij.arts-k.com/> へ是非お越し下さい。



## INSTRUCTOR

日本スキー指導者協会会報 (第20号) (非売品) 平成17年11月1日発行  
 編集人 編集委員会 発行人 田 英夫  
 印刷所 水戸屋紙工株式会社 発行所 日本スキー指導者協会中央事務局  
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-15-5-419  
 TEL & FAX 03-3374-3855 E-mail [ikie@nifty.com](mailto:ikie@nifty.com) URL <http://sij.arts-k.com/>